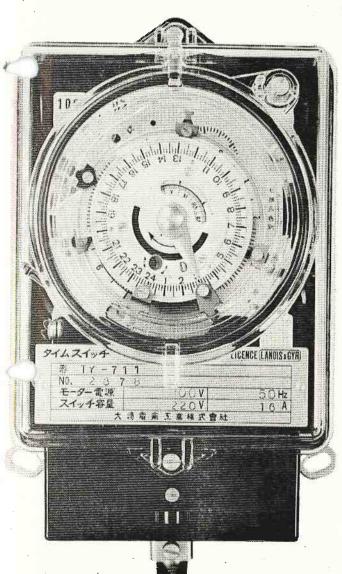
Osaki

タイムスイッチ

ＴＹシリーズ

24時間では足りないあなたに１日＝72時間

大崎タイムスイッチならそれが可能です。
毎日、毎週、毎月、定時刻に自動的にスイッチを〈入・切〉するあらゆる設備機器や年間の日没・日出時刻に応じ、自動的に照明を〈入・切〉する場合に最適です。

大崎電氣工業株式會社

〒141 品川区東五反田２丁目２番７号　TEL.03（443）７１７１番

理事長登壇 ⑧

岐阜県実業団連盟理事長
森嶋清明
(日本耐酸塩工業KK)

「岐阜県実業団ハンドボール連盟」など名前だけは立派に名乗っていますが、内容としては、生れたばかりの赤子と同じ。まだまだ県協会におんぶにダッコで、西へはっていいものか、東へ歩いていいものか、皆目見当もつかず、廻りをキョロキョロ見廻しているのが現状です。

岐阜県実業団の歴史はまだ浅く、昭和36年頃に岐阜市に常盤工業チームが生れました。このチームは、岐阜国体の時期を中心に全国的にも高い技術水準に達していましたが、昭和39年につづいて生れた日本耐酸塩チームとの実力差がありすぎ、実業団連盟を組織するまでには至りませんでした。

何事にもキッカケが大切ですが我々の場合には47年6月岐阜市で開催された、第4回全国実業団トーナメントがそれでした。しかし、この年は私の不手際もあって会長、清水晴次(日本耐酸塩)、副会長、柳瀬準一(二和家具)、理事長に私を決め、正式加盟チーム(三洋、二和、日耐のチームは加盟していると考えていた)のない、頭だけの変則団体として発足し、一応、大会の運営に支障のない程度の手伝いはしましたが、現実の実業団連盟は無に等しい状態でした。しかし全国トーナメントに出場した三洋電機、二和家具、日本耐酸塩の3チームは、他県チームの優秀なプレーを見る事によって、一段と成長し、特に二和家具は県内では常に優勝を争う迄に成長してきました。このような情勢のもとに太平洋工業も正式に部として認められ、あらためて、今年4月17日6チームが集まり、正式に「岐阜県実業団」ハンドボール連盟として、発足いたしました。そして、今年5月6日初めて、自分達の手で、自分達の大会を開く事が出来ました。

我々、岐阜県の実業団チームは一部を除いては、野球でいうならば草野球、陸上ならば町内運動会程度と考えていただいて良いと思います。現に登録メンバーの6～7割は未経験者で占められています。このようなチーム、プレーヤーが多いほど、気軽に新しいチームが加入できる強みは持っています。こんな状態ですから、県協会とも縁はうすく、日本協会となると、登録金だけが両者をつなぐ糸で、日本協会の「会長は誰」「理事長は誰」「協会はどこにある」こんな質問をされても、恥かしい事ですが、理事長の私でさえ答えられないのが実情です。

こんな私が憶面もなく日本協会に注文を望むのは気が引けますが第一にオリンピック又は、世界選手権で全日本を3位以内に入賞させてほしい。

ハンドボールをマイナースポーツから、メヂャースポーツにするには他に方法はないと思います。その為には批判はあってもある程度、手段は選ばずの覚悟が必要だと思います。

次に協会として資金を貯えてほしい事です。

すなわち、地方へ大会を持って来たり、優秀チームを呼ぶ場合には非常に多額の資金が必要となり、資金集めが大変である。その為には、各大学の卒業生を、チームのない所に送りこみ、チームを作らせる事も一つの方法だと思います。我々、愛好者から考えると一部のチームに選手が集まり、他の選手は卒業後ハンドボールから、はなれていくように見えます。我々の周辺にもキッカケがあれば、すぐチームのできる所がたくさん有ります。こんな所へ指導者としての経験者を送りこむべきだと考えます。

この二点が私の幼い願いです。

勝手なことを書き並べましたが、当連盟も発足したばかりで、問題が山積しています。もちろん、各々のチームにとっては勤務時間、練習場、資金、人員(メンバー)などの問題はありますが、根本問題は「ハンドボール」「ハンドボール界」を、加盟あるいは加盟しようとするチームにとっていかに魅力のあるものにするかでしょう。

そのために(一)実連の方針を確立する。(二)資金をたくわえる。(三)試合場の確保。(四)加盟チームの増加と援助。(五)常に新しい企画をもつ。(六)チーム間の意志の流通をはかる……等々を解決していかなければならないと考え、実行に移したいと思っています。

「理事長登壇」は8月、9月号は休載いたします。(編集部)

「ハンドボール」7月号(第110号)目次

【表紙写真】NHK杯女子、東京重機×全日本学生。(6月22日・大阪市中央体育館)(撮影・光島磯雄)

9月1日、全日本と第1戦（東京体育館）

ユーゴ・オリンピックチームの日程

ユーゴスラビア・オリンピックチームの日本でのスケジュールが内定した。6月24日大阪で行われた日本協会全国理事会により検討されたもの。試合数は当初より1試合少なくなりそうだ。第1戦を飾る全日本以外はすべて単独実業団である。

○…日程…○

▽来日　8月30日（羽田）
▽第1戦　全日本、9月1日（東京体育館、15時30分開会式）
▽第2戦　三景、9月2日（東京体育館）
▽第3戦　大崎電気　9月4日（駒沢屋内球技場＝予定）
▽第4戦　大同製鋼　9月6日（愛知県体育館）
▽第5戦　湧永薬品　9月8日（大阪市立中央体育館）

待ちに待ったゴールドメダルチームの来日である。ハンドボールファンに何よりのプレゼントだろう。

来日メンバー（役員3、選手14、随行報道関係者4）は6月25日現在伝えられていないが、ラブルニク、ラザレビク、プリバニック、アルスラナジク（GK）ら現代最高プレイヤーの来日は確定的だ。

第1戦の入場券は日本協会で

日本協会はユーゴスラビアとの第1戦・全日本との試合（9月1日、東京体育館）を本部主管で開催することに決め、入場券の予約を開始した。

予約の方法はオリンピックアジア予選で好評を得た登録チームへのダイレクトメールシステムを採り、今回は関東以東の全チームに送られる。入場料金は一般・学生券が一枚七百円（当日売り八百円）高校・中学生券は一枚三百円（同四百円）。

もちろん関東以西の関係者や本誌の個人購読者、一般ファンなども直接、日本ハンドボール協会（東京都渋谷区神南1の1の1、〒160、電03—467—七〇九七）へ官製はがきで申しこめば自由に予約できる。

また、予約申しこみ書も希望すれば送付の便宜をとっている。

世界男子アジア予選

「イスラエル開催」受ける

日本協会

日本協会は6月24日大阪での全国理事会で、第9回世界男子選手権アジア予選（対イスラエル、2試合）について協議、イスラエル協会が強く要望する「自国開催」を受けいれることに決めた。

この結果、同予選は来年2月中旬イスラエル（テルアビブまたはエルサレム）に日本代表チームが遠征して行うことが確定的となり細部についてただちにイスラエル協会、IHF（国際ハンドボール連盟）と打合せを開始した。

同予選はIHFから、48年10月15日〜49年1月15日までの間にホーム・アンド・アウェイ（互いの国で1試合ずつ）で行うよう指示されていたが、渡辺和美IHF理事（日本協会副会長）の助言もあって、イスラエル、日本両協会とも「予選期日を本大会（49年2月28日〜3月10日・東ドイツ）に近づけ、どちらかの国で2試合」という線をIHFに希望していた。

IHFは5月中旬、渡辺氏あて「承諾」を伝えてきており、日本協会・荒川理事長は2月16日に第1戦、18日に第2戦を行いたい旨、渡辺氏へ申し出ている。

世界選手権のためアジア予選が行われるのは史上初めて、審判員はIHFの指名する第三国により担当される。

日本協会は、IHF、イスラエル協会からの正式連絡を待ちチーム編成をふくめた遠征の具体案をねる。

＜解説＞　ゆれ動く中近東政情への危惧のほか、40m×20mのコートがない、フロアがセメント製だ、第三国の審判員といっても国際試合につきもののホームタウンデシジョン（地元有利の判定）はさけられまい——といった心配をよそに、日本協会が「イスラエル行き」を決めたのは、4月にイスラエル体協のラルキン理事長と荒川理事長が東京で会見し、一応、保安、コートなどの不安が取り除かれたことと、オリンピック予選を日本へゆずったのを理由に「今度はウチの番」としたイスラエルの申し出を押し切ってまで日本で受けいれる根拠がなかったからだ。

荒川理事長は非公式ながら「これでモントリオールオリンピックのアジア予選（昭和50年の予定）を日本に招きやすくなった」とも語っている。

日本にとって、イスラエルに勝てば、そのまま東ドイツ入りできるという利点があり、財政的にも助かるわけだが（注・予選には日本体協の補助がない）問題はイスラエルが2年前とは比べものにならぬほど力をあげている、という情報があることだ。この上は一日も早い新しい全日本の編成と強化が望まれる。なお、今回は、韓国台湾、クウェート、レバノンなどの出場申しこみはなかった。（S）

ラインハウゼンは大洋らと

日本協会はユーゴスラビア・オリンピックチームにつづいて来日する西ドイツ女子「ラインハウゼン」（OSC・ラインハウゼン）の日程を次のように内定した。全日本女子（世界選手権候補）との対戦はいぜん未定、来日メンバーは未発表だが、ゲルテン（GK）、クセロワ、リートホーベン、シュスターらの有力選手が中心となろう。

○…日　程…○

▽来日　9月13日（福岡）
▽第1戦　大洋デパート、9月15日（熊本市体育館）
▽第2戦　大崎電気、9月18日（駒沢）
▽第3戦　東京重機工業、9月20日（駒沢）
▽第4戦　日本ビクター、未定（茨城県水海道市）

17日に1試合の追加を計画中。

女子世界選手権候補に19名（第1回発表分）

全日本男子 監督・コーチの選考急ぐ

今冬12月の第5回世界女子選手権(ユーゴ)、来春の第9回世界男子選手権（2月にイスラエルとアジア予選、本大会は3月・東ドイツ）を控え日本協会は男女全日本チームの編成について検討を進めていたが、このほど、まず女子の候補選手名簿（第1回分）を発表男子についてもミュンヘンオリンピック以降9ケ月ぶりに具体的な強化策を示した。

それによると女子は、12月8日からの本大会に備えて11月中旬に日本を出発、二～三ケ国でトライアルゲームを行ったのちユーゴ入りすることとし、早ければ8月末に代表選手を決定、強化にあたる。

当初の予定では、4月のアジア予選（対韓国）の出場選手を中心に世界選手権代表も決定されるといわれていたが、同予選が韓国の棄権で流会したため、日本協会・荒川理事長が井監督と話しあい、新しい視点に立った候補選手をピックアップすることになったものだ。

しかし、キャリアを必要とし、ましてや世界選手権という桧舞台であれば、新・候補の選考範囲もおのずと限定されるわけで、特に女子の場合モントリオール・オリンピック（昭51）での採用がいぜん不明確な部分もあり、「即戦力」という基本方針は以前と変っていない。

井監督は6月上旬にアジア予選候補（1月に発表＝20名）を主体とした18名を決定、さらにNHK杯（6月22～24日、大阪）後、1名を追加、全国理事会の承認を得たあとこの計19名を第1回分として別掲のように発表した。全日本実業団選手権（7月3～8日岐阜）後、第2回分の発表を行うふくみもあり、その人選が注目されている。強化合宿は7月9日から18日まで名古屋のブラザー工業で行われる。

コーチングスタッフについては井監督からアジア予選前と同よう池田鉄哉（日本ビクター監督）鈴木義男（田村紡監督）藤原侑（日体大女子監督）の3氏がノミネートされ、日本協会も承認した。世界選手権への派遣役員は井監督以外、氏名、人数とも未定。

第5回世界女子選手権候補選手

	氏名	所属	身長
GK	○小原　名苗	（大洋デパート）	163cm
	和田　祥子	（大崎電気）	167
	大工原和子	（前橋ピジョンズ）	162
FP	○垂水　秀代	（大洋デパート）	163
	○米　恵美子	（大洋デパート）	161
	○島田　夏枝	（大洋デパート）	164
	蔵田　照美	（大洋デパート）	163
	○牧野　涼子	（東京重機）	162
	○古佐原ひろ子	（東京重機）	153
	市川　千晴	（東京重機）	159
	池田二三恵	（日本ビクター）	167
	谷沢　竜子	（日本ビクター）	164
	佐藤あや子	（大崎電気）	167
	岩井　悦子	（大崎電気）	157
	○三毛　直子	（田村紡）	164
	鳥居　君子	（ブラザー工業）	162
	木村　正子	（日立栃木）	159
	嶋田ひろみ	（全千葉）	153
	畑中多恵子	（東京教大4年）	157

○印は前回の世界選手権代表

男子、すでに75名の〝候補〟

一方、男子については本誌前号既報のとおり、懸案の強化委員会の発足が遅れ、荒川理事長の提案で「男子ナショナルチーム選考に関する会議」が編成されることになり荒川清美、安藤純光、光島磯雄、渡辺慶寿、中沢重夫、片瀬喜代次、泉正明の各日本協会理事と競技3部から推せんされている強化委員・竹野奉昭(技術)、大西武三(審判)、綿貫敏雄(審判)の3氏の計10名がスタッフに決定した。

第1回の会議（8氏出席）は6月6日東京で開かれ「選手選考よりもコーチングスタッフの決定を優先させる」「新・全日本は広く人材を求める」の2点をまとめた。

選手選考の具体案としては、①昨年度ナショナルプレイヤー（25名）、②全日本ジュニア（29名）、③全日本学連が3月にリストアップした韓国遠征候補選手（33名＝このうち②との重複12名）の計75名をベースとし、6月の全国実業団トーナメント（福井）を渡辺、泉NHK杯（大阪）を荒川、安藤、光島、7月の全日本実業団選手権（熊本）を光島、竹野各委員が視察、この3大会で有望選手がいる場合は追加することを申し合せた。

ミュンヘンオリンピック強化への起点となった42年12月の選手選考時では実に98名が対象とされており、今回もそれに近い数が予想される。第2回会議は7月20日前後の予定。

なお、男子は世界選手権(予選)候補を、女子は7月8日の追加を待ち第1回、第2回分をあわせたメンバーを「48年度ナショナルチーム」とすることに決まった。

まずまずの新登録制度

全国理事会　47年度収支決算も承認

一般Cに142チーム

日本協会は6月24日午前10時から大阪市・中央体育館会議室で全国理事会を開いた（定数33名以内、現在数31、出席22＝成立、欠席9）。

四選の荒川体制は、今年度から常務理事陣を少数化し、つとめて全国理事会の回数を増やすという新構想を打ち出していたがその最初の会議。新・登録制度がまずまずの成果を得たとの報告のほか別面詳報のとおり、ユーゴオリンピックチームの来日日程、男女世界選手権強化の具体策、世界選手権男子アジア予選のイスラエル開催、48年度一般会計予算を議決、47年度決算報告を承認した。

また、荒川理事長から、勝繁夫技術部長（常務理事）が健康上の理由で辞任届を提出している旨、報告があり受理した。後任は、荒川理事長に一任されたが6月28日現在、未発表である。

この日の会議で、ユーゴ招待をふくめた一連の頂点強化対策と並び、もっとも関心を集めたのは、今年度の登録チーム数である。

発表された数字は、5月31日現在、未届けの1県を除いた〝中間報告〟だったが、

▽一般A一四九▽同B一一六▽同C一四二▽学生一〇八▽高校一二六三（いずれも男女計。一般には教員を含む）の計一七七八チーム。

昨年6月30日現在よりも九六チーム増となり、特に一般が昨年の三三八チームから四〇七（A、BC合計）へと伸びたのは、今年度から施行された「一般C」の影響によるもので、新システムは一応の成果をあげた、と評価された。

「一般B」「同C」の新設により昨年の「一般」が、どのくらいの数に〝分散〟されるか予測が難しく、特に「一般A」は百台の確保を危険視するムキもあったが一四九チームを得た。

「一般C」は今後も登録が受けつけられるだけに、年度末には、当初の日標とされた二百チームに近づくものと想われる。

なお、高校は25チーム、学生は2チームのプラス。

新年度予算も一応の見通し

48年度一般会計予算は、その収入予算額の約18％＝約三二八万円をチーム登録金から見込んでおり登録チームの集計いかんによっては修正の必要が生じるわけだったが、中間報告の数字だけで三二〇万円を手中にでき執行部を安心させた。（支出内訳は本誌108号既報）

ただし、一般からの収入額は大幅にダウン。

すなわち、昨年度、一般チームが納めた登録料の総額は一三四万二千円だったが、今年度は3ランク合わせて百万円がやっとだ。このマイナスは「B」「C」の新設によってある程度予測されたものであり、「減少分だけクラブ対策にお金をかけたと思えばいい」とする荒川理事長の言を借りれば、〝机上のクラブ対策費は34万円也〟ということになる。まずまずの額といってよい。財政面の問題は「一般A」「同B」で四千五百人を見込んだ個人登録（一人二百円）がこのあとどの程度の数字をマークするかだろう。

一方、47年度一般会計決算は、日本体協の指名した田沼次郎、大河内誠一両公認会計士によって5月中旬、綿密な監査が行われ、さらに6月に入り、日本協会山田稔監事もこれまで同ようの監査を行った。その結果、田沼、大河内両氏連名の監査報告書が提出され、山田監事からも「収支の適正を承認」の発言があり、特に質疑もなく、全会一致で議決、全国評議員会の承認をうけることになった。

当期収支（47年4月1日～48年3月31日）は収入二三、五三〇、三六五円、支出二〇、九〇三、五〇七円、当期剰余金二、六二六、八五八円である。（47年度決算報告は全国評議員会の承認後本誌に掲載いたします）

なお、審判員審査料の改訂は議題とならなかった。

〝松ヤニ使用〟初めて話題に

日本協会の新規事業については、荒川理事長から、ミュンヘン・オリンピック前に行ったナショナルチームの国内サーキットの再開、ビッグチームの単発カードや選抜大会の地方誘致を積極化して欲しいとの発言があり注目された。これは、地方におけるハンドボールの普及とレベルアップを目的に、例えば国内有力チーム2チームと地元チームのリーグ戦などを指すもので「日本リーグ」への胎動とみれなくもない。

また、NHK杯全日本選抜大会はNHK側の意向もあり、できるだけ早い時期に〝国際化〟することになった。詳細は常務理事会へ一任されたが、その場合、全日本選抜大会の存廃が新たな課題だ。

このほか、横地理事から「愛知県内では松ヤニ使用のハンドボール大会に施設を借さなくなってきている」との発言があり、松ヤニ使用のチームに対する日本協会の見解も質したが、安藤審判部長、杉山総務企画部長は「松ヤニ」使用を禁ずることは日本協会レベルでは考えていない、ただしそのような使用規程の施設を利用して開く大会では、大会要項にその旨示すことは仕方がないと答えた。

ボールテクニック（ハンドリング）の〝補強剤〟として指に合板接着用の松ヤニをつけるヨーロッパの流行が日本に伝えられてすでに15年近くになり、最近3～4年でこの傾向はいっそう強まってきたが、全国理事会で〝話題〟となったのはこれが初めて。

人事面では代行をたてていた全日本教職員連盟が、柳井文治氏（山口）を選任した以外、大きな異動はなかった。

旅費規定一部改正　日本協会は6月24日の全国理事会で日本協会旅費規程第5条を次のように改正した。第5条「日本協会の主催する全国大会に派遣される大会会長、大会委員長、大会審判員（審判長、副審判長を含む）の旅費は国鉄運賃に2等急行又は特急料金を加算して支給、旅程によっては寝台料金を付加する」

男女とも3勝（5戦）あげる

日韓学生親善試合

第7回（女子第2回）日韓学生交流は、6月6日から全日本学生選抜軍の藤松博団長ら役員7人、選手男女各14人が遠征して行われた。

男女ともソウルを中心にそれぞれ5試合が組まれ、男子は緒戦で韓国ナショナルともいえる韓国学生選抜と引き分けたほかは、成均館、円光、ソウル選抜などに快勝、第3戦で慶熙に敗れ〃全勝〃は成らなかったが3勝1分1敗の成績を残した。

海外初遠征の女子は、いきなり韓国ジュニア選抜と対戦、惜敗したものの第2戦以後もちなおし、結局3勝2敗で全日程を終えた。

韓国球界は男女とも若手の力に侮れぬものが感じられ、特に高校時代ナショナルプレイヤーに選ばれ日本にもおなじみの車聖福と金成憲が揃って成均館大へ進み相変らずの巧技を示していたのが光った。女子の好選手はすべてティーンエイジャーだった。

これで男子の通算成績は37戦24勝9敗4分（うち7人制31戦18勝9敗4分）女子は9戦5勝3敗1分（いずれも7人制）と日本側がいぜん優位を保っている。

なお、日本チームが男女滞同して外国遠征したのは史上初。一行は6月15日夜羽田着の大韓航空機で帰国した。

男子

緒戦は引き分けに終る

第1戦・韓国学生選抜との試合は6月7日午後4時20分からソウル運動場で第3回西敏郎（全日本学連会長）杯争奪戦として行われた。審判＝金昌勲、金鎭河。

全日本学生 18（6－6、12－12）18 韓国学生選抜
引き分け

得	【日本】		【韓国学生選抜】	得
0	福井	GK	金永年（成均館）	0
0	柴田	GK		
3	山村	FP	金成奎（慶熙）	0
5	細江	FP	趙鉉哲（円光）	0
2	菊池	FP	鄭享均（円光）	0
5	柳	FP	金晩秋（慶熙）	0
0	津川	FP	車聖福（成均館）	4
0	夏目	FP	李鍾七（成均館）	0
0	喜井	FP	金栄会（慶熙）	5
1	村田	FP	李明煥（円光）	1
0	川畑	FP	牟鍾起（円光）	0
1	中村	FP	金成憲（成均館）	7
1	牧野	FP	金充洙（慶熙）	1
18	(1)	7MT	(4)	18

後記　細江守男

韓国での第一戦は、ソウル大運動場のテニスコートで行なわれた。我々は、体育館でやるつもりで、日本の合宿も室内練習ばかりやってきたが、こちらに来て、急拠グランドに変ってしまって、少しとまどった。また観客も日本では、考えられないほど熱狂的なファンが多く国民性がはっきり表われていた。

試合は、前半開始三分にセットから先取点をあげ、幸先のよいスタートをきったかと思われたが、そのあとすぐに、相手チームに7MTをとられた。そのあとも我々のミスをつかれ、速攻をかけられた。我々もすぐにセットからのポストプレーで返し、一点を争うゲーム運びとなり、前半は6－6のタイで終った。

後半は、韓国のナショナルプレーヤーの車、金のコンビからのプレーで得点を重ねられた。しかし日本も韓国チームの4・2デフェンスの弱点をつき、ダブルポストからのブロックプレーでリードを奪い、後半二十分まで日本のペースであったが、そのあと金のサイドからの絶妙なシュートなどで追い上げられ終了一分前に18－18の同点にされ引き分けた。この試合は、会長杯をかけていたのでぜひとも勝ちたかったのだが……。

この試合で感じたことはジャッジの仕方が、日本と少し異なっていた点だ。特にホールディングなどは、すべて警告をとられ、またオーバーステップも多くとられた。使用したボールも少し変っていて、とても軽く、ドリブルをするとボールがはずみすぎた。やはり外国で試合をする場合は、不なれな条件が重なることを感じた。

（FP、日体大4年）

成均館大を振り切る

第2戦・成均館大との試合は6月9日午後5時30分からソウル運動場で行われた。審判＝陸成洙、李峰一

全日本学生 19（11－7、8－9）16 成均館

後記　山村佳生

韓国学生の主力であり、2年前高校生ながらオリンピック予選の

得	【日本】		【成均】	得
0	柴田	GK	姜成炫	0
0	福井	GK	金永年	0
2	山村	FP		
0	細江	FP	崔掬鎮	4
5	村田	FP	安義洙	0
1	柳	FP	車聖福	2
6	中村	FP	金成憲	4
2	夏目	FP	李鍾七	3
3	菊池	FP	金虎吉	3
0	津川	FP	姜和鎬	0
0	喜井	FP	孫泰烈	0
0	牧野	FP	金宜鎮	0
0	川畑	FP		
19	(4)	7MT	(2)	16

代表に選ばれた金成憲と車聖福のコンビを中心とした成均館は今シーズンの韓国大学選手権のナンバー・ワンとのことであった。

第1戦では金成憲のサイドとポストの絶妙なシュートに7点もとられ、これが因で我々は引き分けにもちこまれただけに、第2戦では最初から金成憲をマーク、いかにその動きを封じるかが課題であった。そのために日本側はディフェンスの良い柳をサイドに起用するという作戦をとった。前半まず五分中村の速攻で先取点を取り、その後すぐに7MTを村田が確実に決め幸先の良いスタートを切った。ペースとしては日本側の握っている感じで、絶えず二点ぐらいの差を保ち、試合を優位に進めていった。前半の得点は両チームともセットからの得点が多く、成均館大のディフェンスは韓国選抜チームと同じ4・2のシフトを引いていた。前の試合の経験を生かしオフェンスはバックを大きく広げてブロックやクロスでロングを打たしたり、ポストにボールを落したりして攻撃面においてはのびのび全員がやっていたと思う。そしてもらった7MTは村田が観客の声にも動揺することなく決めてくれたので助かった。

後半は始まってすぐ崔掬鎮に倒れ込みで得点されたものの、中村、柳の速攻で連取、このまま日本側のペースでいくかと思われたが、さすがに韓国NO・1のチームだけあって後半10分過ぎから底力を見せてきた。セットでは車聖福にボールが集まり、車がボールを巧みに回しポストプレーヤーをうまく利用、日本側ディフェンスをゆさぶってきた。後半になって日本の攻撃が少し雑になったこともあり逆速攻でも多くやられた。この相手のペースになりかけの時に菊池が、大きな体を利用して相手のバックに体重を乗せてジャンプシュートを10分間ぐらいの間三点を決めたことにより再び試合のペースが日本側のものとなった。成均館は点差が縮まらないことによって焦りが見られ、シュートまでの時間が短かく無理な体勢からのシュートが多くなり、それを中村への速攻のボールとしてGKも思い切り出し勝負は決まった。

試合後の感想としては、日本側はシュートした後の戻りが遅く、帰りのディフェンスがうまくいかなかった。それは選手一人一人のマークが足りなかったことだと思う。警戒した金成憲は後半になってマークしたにもかかわらず3点も取られていた。やはりすごい選手であった。日本の学生の中にこのような選手は見わたらないだろう。成均館大の選手達は、皆親切で非常に好感が持てた。（FP・中大4年）

慶熙に不覚の1敗

第3戦・慶熙大との試合は6月10日午後5時10分からソウル運動場で行われた。審判＝崔源倍、金正秀。

慶熙 16（8－4、8－6）10 全日本学生

得	【慶熙】		【日本】	得
0	李錦求	GK	福井	0
0	黄亨求	GK	柴田	0
1	張正穆	FP	細江	1
1	金錫柱	FP	柳	0
1	金允洙	FP	夏目	0
3	金栄会	FP	菊池	6
6	金晩秋	FP	山村	0
4	金性洙	FP	村田	1
0	金成奎	FP	津川	0
0	金培中	FP	牧野	0
0	韓在愚	FP	喜井	0
0	朴正九	FP	中村	2
0	呉徳煥	FP	川畑	0
16	(6)	7MT	(4)	10

後記　柳　隆司

チームを組んで以来、初の1敗となった。

会場は前の2試合と同じソウル運動場の特設コート、テニスの国際試合もここで行われる、とかであった。

快晴に恵まれ日曜日とあってスタンドは満員、韓国全土にテレビ中継も行われた。

韓国に着いて5日目、ようやく食事にもなれたが、水が飲めず食事に変化がないためか食欲がわかない。そのため調整が難しく、前日成均館大のレセプションなどがあり、疲れが取れず、最悪のコンディションの中でゲームが始まった。

前半は慶熙の金成奎のセットからのジャンプシュートがよく決まり、日本は追上げる形となったがGK李の好守に合い、なかなか点を取ることができず、また、個々のシュートにも疲労の色がかくせず、切れのいいシュートも見られなかった。前半の10分ごろからタフな菊池のセットからのシュートで、日本は波に乗りかけたのだが、そのあとの7MTをはずし、再度のノーマークシュートなども失敗して点差をつめられなかった。

ディフェンスのコンビネーションももう一つとのわず、慶熙大のコンビネーションはさして怖いとは思わなかったが実にタイミングがうまくあっており特にセットから金性洙、金晩秋のシュートを色々の角度から決められてしまった。この二人はGKのタイミング

訪韓選手団名簿

団　長　藤松　博(45) 全日本学連理事
監　督　滝口三郎(36) 全日本学連理事
コーチ(男) 北川勇喜(37) 日体大男子監督
コーチ(女) 藤原　侑(31) 日体大女子監督
審判視察員　宇津野年一(48)全日本学連理事

〔男子選手〕　○印は全日本ジュニア

GK　○福井　秀人（中京大4年 179cm）・
　　○柴田　正章（法　大2　185　）・
FP　柳　隆司（法　大4　177　）⑫
　　○村田　幸男（法　大2　176　）⑬
　　○菊池　悟（早　大3　186　）⑲
　　川畑　幸永（早　大3　170　）・
　　○細江　守男（日体大4　174　）⑥
　　○喜井　美雄（日体大3　178　）・
　　山村　佳生（中　大4　174　）⑦
　　○中村　博之（大体大4　179　）⑱
　　○津川　昭（大経大4　180　）③
　　○牧野　彰文（同志社大4　174　）①
　　○夏目　真治（中京大4　181　）⑤
　　堀合　誠蔵（福島大3　170　）・
主務　岡田　修（中大4年）

〔女子選手〕

GK　松井　規子（東教大4年 164cm）・
　　堀川登紀子（大体大4　158　）・
FP　小林　信子（日体大4　154　）④
　　松本みどり（日体大3　156　）⑦
　　坂本　陽子（日体大3　168　）⑦
　　木元　典子（日体大2　165　）③
　　藤山　聖子（日体大2　166　）⑦
　　坂上　節子（日体大3　156　）②
　　堀川　景子（大体大4　158　）③
　　高市　陽子（大体大2　164　）・
　　畑中多恵子（東教大4　157　）⑬
　　松本　良子（中京大4　160　）①
　　安井　栄子（中京女大4　158　）・
　　西田　恵子（東女体大3　154　）④
主務　繁田　純子（日体大4年）

○内数字は韓国での得点（5試合）

をはずしかたが巧くシュートもなかなか鋭かった。
　日本はなかばすぎから中村のステップシュート、細江のジャンプがきまりはじめたのだが2本7MTをGK李の再度の好守に阻まれたのがこたえた。その結果が前半の6−8で、3戦目にして初めてリードされてハーフタイムとなった。
　後半は20分間に1点もポイントが取れず、20分目にやっと菊池がセットからポストシュートをきめるという低調。
　これに対し慶熙大の選手はていねいにしかも、うまくボールを回し、金栄会がほかの選手を巧みにリード、確実に得点をきめた。日本は後半25分ごろからようやく、中村、菊池の両者が豪快なシュートをきめ、ようやく村田が7MTを入れるなどして追いかけたが、結局前後半とも立ちあがり動きの鈍さから再度のチャンスを逃したのがたたり、10−16で敗けてしまった。
　相手チームで印象に残ったのはGK李の好守だ。李に始まり李に終ったという感じさえした。FP陣は成均館大の車聖福、金成憲のようなすばらしいプレイヤーはいないが全体によくまとまっており地味なカラーの渋いチームに思えた。
（FP・法政大4年）

円光の反撃かわす

　第4戦・円光大との試合は6月12日午後8時から全州市・全北体育館で行われた。審判＝金昌勲、成鍾元

全日本学生 20（13−6 / 7−10）16 円光

得	【円光】		【日本】	得
0	竜煥麟	GK	柴田	0
0	羅承針	GK	福井	0
0	李明煥	FP	津川	3
0	崔允燦	FP	山村	1
2	金章燦	FP	菊池	5
5	朴延洙	FP	柳	3
8	鄭亨均	FP	村田	3
1	牟鍾起	FP	夏目	2
0	文鍾成	FP	細江	0
0	鄭鍾鉱	FP	中村	3
0	徐炳煥	FP	堀合	0
0	趙鉱哲	FP	喜井	0
16	(2)	7MT	(2)	20

　前半開始直後、相手のセットからのポストプレーで先取点をゆるしたが日本もその後すぐに小生が一点を返した。10分をすぎると日本は相手のミスをさそい速攻で連取した。一方、円光も鄭がブラインドからのシュートをよく決めたが、それまでで前半は日本のペースで試合が進んだ。後半は5分後に相手の速攻で2点を連取され、13−8となり相手を勢いづかせた。日本側はまとまりがなく、津川、菊池などの個人プレーで返すのがせいいっぱい、15分すぎにはまたも鄭のステップシュートで連続3点をゆるし一時は4点差まで追い上げられたが前半の大量差があったため辛くも逃げきれた。試合の流れから見ると前半の7点差を、後半に守りきれなかったのはペース配分、ディフェンスの甘さ等が原因であった。各試合を振返って見ても攻撃力は相手チームよりも優っていたが、防ぎょにおいてはまだまだ未完成、自意識過剰で選抜チーム特有のもろさが随所に見られたのも残念である。
（FP・大阪体大4年）

後記　中村博之

　ソウルからはなれて全州へ。初の屋内コートで第4戦が行われた。
　全北体育館は、直径約45mの円形体育館で観衆の収容能力は、およそ一万人である。試合は平日夜8時からであるというのに満員に近い観衆で年令差は多少みられたが、韓国のハンドボールの人気は日本国内以上。その観衆も熱狂的ファンが多いことには驚ろかされた。国内試合では感じたことのない異様な雰囲気と、思わず殺気さえ感じる彼等の熱気の中で試合が始まろうとしている。ベンチの指示はもちろん、コートの7人、隣の者の声でさえ耳にしにくい状態である。

最終戦、ソウル選抜に勝つ

　第5戦（最終戦）ソウル学生選抜との試合は6月14日午後5時48分からソウル運動場で行われた。

全日本学生 17（9−6 / 8−8）14 ソウル学生選抜

得	【ソウル学生選抜】		【日本】	得
0	金永年（成均館）	GK	福井	0
0	李錦求（慶熙）	GK	柴田	0
5	車聖福（成均館）	FP	山村	1
1	安義洙（成均館）	FP	村田	3
0	呉徳煥（慶熙）	FP	菊池	3
3	金晩秋（慶熙）	FP	中村	6
0	金成奎（慶熙）	FP	柳	3
0	李鍾七（成均館）	FP	夏目	1
3	金栄会（慶熙）	FP	細江	0
0	張正穆（慶熙）	FP	牧野	0
0	金虎吉（成均館）	FP	川畑	0
2	金成憲（成均館）	FP	喜井	0
0	崔掬鎮（成均館）	FP		
14	(2)	7MT	(1)	17

後記　牧野彰文

　この日は昨日からの雨が、周期的にふり続き、試合が、危ぶまれたが、午後になって、雨も止み、予定より30分程遅れて、6時近くになって開始された。コートはサイドライン沿いに壁があり、多少危険を感じた。スタンドはソウル市内の小中高生や一般の人々で埋まり、その歓声で、審判のホイッスルが、聞こえない程であった。
　ソウル大学選抜は、成均館と慶熙大との混成チームで、主力は、成均館の車、金、慶熙の金らで、慶熙大には苦杯を喫しているだけに、対戦成績を3勝1敗1分けとする意味においても、日本は必勝の構えでのぞんだ。同時に相手も最終戦とあって張り切りエキサイトした試合運びとなった。
　前半、幸先の良い中村、柳のシュートで先取、ソウルは、前半は成均館のメンバーが出たが、攻め

に鋭さが無かった。だが6分、安が日本ディフェンスの甘さをついてポストでゲット、その後15分間は常に日本が3点のリードを保った試合運びとなった。しかしその後は、日本側に警告、退場が続出し、前半20分には、ソウルの2点連続ゴールで会場はわきにわいた。しかし日本は、ボールをよく回し、要所、要所でシュートを決め、守っても、早いつめで、ソウルの攻めを最少に押え、前半を9―6で終った。

後半に入って、1分、日本ディフェンスのすきをついて慶熙大の金がセットからスタンディング、2分にも同じく金が7MTを決め1点差と迫られた。しかもその後の日本のディフェンスが固く、激しいとの判断から警告を受け、あるいは退場する選手が続出しピンチとなった。オフェンスは前半と変らないボールのつなぎで3点差を保ったが、後半の半ばから、車―金（成）の成均館コンビにディフェンスをおびやかされ、再々にわたる得点で点差を縮められた。しかし終盤に入って柳、細江らを中心にディフェンスを固め、オフェンスにおいても、中村を中心に得点をあげて、試合のペースまでは渡さず押し勝った。後半終了前には今まで練習して来た効果がやっと出たという感じで、山村からのポスト柳へのコンビネーションプレーでゴールを決め17―14で終了した。

五戦をふり返ると一試合だけ屋内で行なわれ、残りの四試合が屋外であった。ソウルの体育館は40m×20mの広さがとれないためであったのかもしれないが、日本での合宿がほとんど屋内のためかどうもやりにくい感じがした。小中学生の熱狂的な応援には非常に感激させられた。ほとんどの試合が小中高体生でスタンドがぎっしりだった。そこに、日本とは違う、底辺の広さを感じる思いだった。

（FP・同志社大4年）

女子

屋外コートにとまどう

第1戦・韓国ジュニア選抜との試合は6月7日午後4時からソウル運動場で行われた。審判＝李時黙、宇津野年一

全日本学生 13（9―6, 4―5）11 韓国ジュニア選抜

得	【日本】		【韓国】	得
0	松井	GK	金賢淑	0
0	堀川登	GK	金美愛	0
1	小林	FP	盧千順	0
2	松本み	FP	金玉淑	3
2	木元	FP	李相玉	1
3	畑中	FP	金英淑	0
2	西田	FP	金福順	0
1	堀川景	FP	金玉子	3
0	坂木	FP	金敬愛	0
0	高市	FP	李京淑	3
0	松本良	FP	姜京宜	2
0	安井	FP	金淑姫	1
11	(4)	7MT	(1)	13

〔参考〕▽韓国ジュニア・ほかの登録選手、FP盧敬姫、金竹慶、朴妙順

後記　小林信子

日本ではわざわざ韓国の体育館は狭いと聞いて34mのコートで練習を積んできたのに、着いてみると屋外の球技場である。東京での合宿打ちあげから4日間のブランク。不安の材料が重っての第1戦だ。

午後3時半入場行進、国旗の掲揚がなくて、あがっている国旗に敬礼したのには、驚いた。なんと見物客が多いことか、うるさくて頭が変になりそうだった。

日本側のスローオフ。ここでまた驚くことがあった。女子のボールが男子並の大きさである。立ちあがりすぐ日本側の7mスローで1点先取さらにポストプレーで加点、さいさきのよいスタートをきったかにみえたが、すぐ2対2の同点に追いつかれた。それからは韓国ペースで試合が進み、私達はややあがっていたせいかディフェンスの声の連絡もうまくいかず、簡単なポストへのパスを自由に通させてしまった。結局ほとんどのシュートをノーマークで入れられ前半9対6と相手にリードをとられてしまった。私達の得点の取り方はまあまあであったが、相手に9点もやってしまい後半は苦しい展開となった。

後半もすぐ1点を入れられてしまった。それからは皆ボディチェックをして、韓国側のポスト攻撃を防いだ。しかし私達の攻撃はまん中に片寄りすぎてしまったように思う。せっかくむこうに退場者が出て6人対5人でせめているのに、わざわざディフェンスのいる方へいる方へと攻めてしまった。ベンチからのアドバイスも観衆にのまれてしまって、この機会に得点できなかったのが残念だ。1点差までに追いあげ残り時間あと1分という時に速攻のチャンスがあった。しかしボールのバウンドのしかたがかわったためか惜しくもチャンスをのがし、逆に残り時間20秒位の時に1点入れられ試合終了となった。韓国側は3人の左利き（金玉淑、李京淑、金淑姫）を軸に両サイドから切ってきてポストでクロスし、最後にポストがシュートするという形が多かった。またロングシュートはジャンプシュートではなくほとんどがステップシュートだった。

敗因としては、前半のディフェンスの悪さがあげられよう。

（FP・日体大4年）

李純玩加えた梨花に勝つ

第2戦・梨花大との試合は6月9日午後4時からソウル運動場で行われた。審判＝白武男、成鍾元

全日本学生 9（5―2, 4―5）7 梨花大

得	【日本】		【梨花】	得
0	松井	GK	朴吉閔	0
0	堀川登	GK	沈順熙	0
0	小林	FP	金順子	3
0	松本み	FP	全恵子	1
5	坂本	FP	李純玩	1
2	畑中	FP	尹栄旭	0
1	藤山	FP	林恵玉	0
0	西田	FP	宋圭賢	0
0	松本良	FP	李美羅	0
0	木元	FP	鄭仁淑	2
0	安井	FP	金延美	0
1	坂上	FP	沈順姫	0
9	(2)	7MT	(0)	7

後記　松井規子

六月九日、午前練習の後、昼食会を梨花女子大学に招かれ、総長さんをはじめ、チームの皆さんと親睦を深め、和気合い合いのうちに試合をむかえた。第一戦で、にがい経験をした私たちは、胸の日の丸にかけても負けられないという気迫がみなぎり、ムードの盛りあがりがみられた。

梨花女子大に関する情報は、一昨年来日して各チームと対戦していたので、少しはわかっていたが当時のメンバーの半数は卒業、強力なロングシューターである李純玩が実業団の白花醸造から加わったこともあり、警戒しての立ちあがりだった。

試合は予想通り李選手中心の攻撃。これに対して、我々のディフェンスは、李選手一人をマンツーで守り、残り五人は一線の防御シフトをしいた。韓国側は、マンツーでつかれた場合の攻撃方法がな

いまま、残り五人で、カットインからの単純な攻撃のくりかえしで時々、ディフェンスの影からシュートをねらってくるのみ。速攻においては、出足がにぶく、ノーマークが一本出たきり、これも、GK堀川の好守で得点とは結びつかなかった。しかし、韓国女子チーム全体にいえることだが、各選手がよくボールを持ち、ゴールに対して、いっも、シュートを打てる体勢をつくっている。この試合でも、ディフェンスのちょっと気を抜いたわずかな瞬間をついて得点された。李選手は、普通の攻撃の時はマンツーでつかれ、持ち前の強力な左腕を使うことができないので、フリースローとなるとここぞとばかり一人でポイントに立ちシュートしてきた。

試合は前半7分、フリースローで坂本のロングが決まり、つづいて、西、畑中のコンビプレーが成功、さらに速攻で坂上が7MTをとり、しだいにオフェンスに活気がみられた。しかし日本側が優勢に試合を進めているものの梨花大に単発的なシュートをきめられ、最後まで、楽観できない試合展開だった。結局、前半の3点差で余裕が生まれ、後半追いこまれながらも1勝をあげることができたがボール回しでのフォローが浅いことや攻撃が片方だけにかたよりすぎるなど、我々には反省すべきことが多かった。

（GK・東京教育大4年）

速攻出ず、全慶熙に敗る

第3戦・全慶熙との試合は6月10日午後4時からソウル運動場で行われた。審判＝朴千祚、宇津野年一

全慶熙 13（7−2 / 6−7）9 全日本学生

得	【慶熙】		【日本】	得
0	李貞順	GK	堀川登	0
0	金美愛	GK	松井	0
0	尹栄旭	FP	畑中	1
0	全恵子	FP	坂上	1
0	尹永全	FP	藤山	1
4	李純玩	FP	坂本	2
2	趙喜順	FP	松本み	2
3	李京淑	FP	松本良	0
1	金順徳	FP	木元	0
2	盧敬姫	FP	小林	2
0	金慶姫	FP	安井	0
1	韓玉珠	FP	堀川景	0
13	(1)	7MT	(1)	9

後記　堀川景子

韓国へ来て5日目、そろそろ旅の疲れもとれ、韓国の生活様式にも慣れてきて、練習していても体が軽く、だいぶ動けるようになった。

第3戦の相手はOGを加えた全慶熙、李純玩と李京淑の二人をマンツーマンし、やや引きぎみのディフェンスをしてロングシュートを打たせ、今までできなかった速攻で点を取ること作戦で臨む。

全慶熙は全体的に背が高く、平均身長は約一六四センチである。特に、エースの李純元は一七〇センチと長身で、一年前に白花醸造で活躍していた経験がある。現在は、梨花女子大学に所属しているという。李の実力を知る日本は坂上が忠実にマーク、このためフリー攻撃では自由にシュートを打たれることがなかった。しかし、フリースローでは充分なシュートモーションで打たれたため、前半には四本中二本という高率でゴールインされるし、後半においても一点取られた。彼女のフリースローはわかっていても防御できなかった。とても悔やまれる。李京淑も好選手だった。自分のマークをはずしながら積極的な攻撃をみせ、とくに左ききを生かして左まわり込みのスピンのきいたサイドシュートは、敵ながら思わず手をたたきたくなるプレーであった。

全慶熙の得点の内訳はフリースロー三本、速攻三本、遅攻六本、7MT一本と理想的なもの。それにひきかえ日本は速攻がたった一本、遅攻七本、7MT一本でフリースローから一本も点をとることができなかった。

作戦どおり速攻において点を取ることができなかった原因は、マンツーをしている者が、ディフェンスからオフェンスにきりかえがスムーズにできなかったことと一線と二線のつなぎが悪かったことだろう。

また3本の7MTのうち1点しかとれなかったのもひびいた。

第1戦以来、もっとも強敵という感じがし、それだけにどうしても勝ちたかった。あと2試合、勝ちこしのため全力をつくして〝連勝〟したい。

（FP・大阪体大4年）

後半一気に引き放す

第4戦・韓星女大との試合は6月12日午前11時20分から釜山市の九徳体育館で行われた。審判＝李善行、李時黙。

全日本学生 12（4−4 / 8−4）8 韓星女大

得	【日本】		【韓星】	得
0	堀川登	GK	申恵泳	0
0	松井	GK		
6	畑中	FP	金潤順	0
0	堀川景	FP	朴恵姫	2
0	高市	FP	蔣明瑞	2
0	安井	FP	金順玉	0
0	木元	FP	申大鉦	0
4	藤山	FP	具英洙	0
1	松本み	FP	李喆順	0
0	坂本	FP	朴仁淑	4
0	坂上	FP	李徳子	0
1	堀川景	FP		
12	(1)	7MT	(2)	8

後記　安井栄子

ソウルよりバスで約六時間ゆられて釜山まで行き、円型の体育館の中にブラスバンドの演奏を背にして入場式が始まり三千人位入る観客席が学生でいっぱい、盛大な歓声に驚いてしまった。この日は釜山市の学校を休みにし応援に来たという。

前半は日本チームの出足が悪くなかなか調子をつかめなかった。

相手の攻撃は動きの速さをともなったローリングオフェンスで、わずかなスキを見つけるとミドルを容しゃなく打ってくる。ディフェンスは4・2ゾーンで、日本はしばしば動きを止められた。

特に自分の前のディフェンス体勢と味方のポストマンの間をしゃ断され、視野の狭い動きしかとれなかったのが、チャンスの割に得点の少い原因だった。

速攻も、一線がよく走っていてGKからのワンパスが通るかのように見えながら、狭いコートのためタイミングが合わず、インターセプトされては逆襲をうけた。

後半になると、ようやく前半のまずかった点がなおり、特に全員がよく走って速攻からポイントした。セットオフェンスもポスト、サイドによく球が廻り、要所で得た7MTも畑中、藤山がよく決めて大差をつけた。後半は闘志、技とも我々が、韓星を上廻ったと思う。

（FP・中京女大4年）

反撃かわし勝ちこし

第5戦（最終戦）全鳳永クとの試合は6月14日午後4時30分からソウル運動場で行われた。審判＝金鎮河、李庸悳。

全日本学生 10（6−2 / 4−6）8 全鳳永ク

後記　西田恵子

最終戦、昨夜からの雨が残り、

得	【日本】		【鳳永】	得
0	松　井	GK	方順実	0
0	堀川登	GK	中恵泳	0
2	松本み	FP	鄭貞淑	0
1	畑　中	FP	朴妙順	3
2	西　田	FP	俞慶淑	4
1	松本良	FP	金敬愛	0
0	坂　本	FP	鄭淳福	0
1	木　元	FP	金玉淑	0
1	藤　山	FP	趙泰順	0
0	高　市	FP	林仁淑	1
1	小　林	FP	具永珠	0
1	堀川景	FP	安庚淑	0
10	(10)	7MT	(2)	8

試合が危ぶまれたが、幸い午後になって雨があがった。会場はグランドコンディション不良のため練習場にあてられていたバレーボールコートに変った。

最終日という事から選手全員の気持ちの中にも意気込みがみられた。立ち上がり速攻ミスが続きせっかくのチャンスも得点がはいらなかった。9分すぎ、サイドからのブロックプレーで先取点をあげた。その後セットで確実に得点。ディフェンスも今までのゲームから比べたらボディチェックができていたしサウスポーの多い相手のオフエンスに対してのチェンジもなんとか切りぬけ前半は2点でおさえた。最初心配していたグランドコンディションも思ったよりは悪くない。うずめつくされた観衆の声にもかえってファイトがわいてきた。後半開始3分前の笛、あと25分だ。頑張ろう。ファイトのかけ声とともにスローオフ。マイボールからロングシュートが決まり私達の気持も一層盛り上がった。しかし相手チームもよく動き特にサウスポーのフローターに対してのチェンジが悪くセンター附近からのミドルシュートを許してしまった。オフエンスも速攻での得点はあったが、セットオフエンスのローリングのフォローが悪く相手に逆速攻をうけた。精神的な弱さがここに出てしまったのかもしれない。興奮のうちにノータイムの笛……。勝った。この1勝でこの遠征を勝ちこせたと思うと日の丸の責任もいくらか果せたという気がしてなにかホッとするものがあった。

韓国チームは各チームとも左腕のFPが非常に多く、それぞれ巧味のあるプレーを見せていたのが印象に残った。2敗の原因はこれらに対する防禦体型を早くつかめなかったことにあろう。

日本チームの攻撃は合宿(東京)時よりスピードに欠けていた。

コンビネーションもいまひとつ流れを欠き、ここらに混成の難しさと、合宿～遠征間の空白の影響がのぞかれた。

（FP・東京女体大3年）

本誌では次号にも韓国遠征リポートを掲載します。

8月に日韓高校　日本体協は8月東京で第6回日韓高校交歓競技会を開く。ハンドボール（男女）は16日、18日の2日間駒沢屋内球技場の予定。女子は初。

大同製鋼、大洋デパートにNHK杯輝やく

世界選手権候補の選考資料となる第20回NHK杯全日本選抜大会は6月22日から24日までの3日間大阪市・中央体育館で行われた。

出場したのは男女とも日本協会推せんによるビッグフォア。期待どおり、好内容の試合がつづき、男子は、学生、教職員（大阪）のピックアップチームを降した大同製鋼（愛知）と湧永薬品（大阪）の単独実業団が優勝をかけ、互角のわたりあいから、わずかに大同が押し勝ち初優勝、昨年12月以来公式戦32連勝をマークした。

女子は第2日、チャンピオンの東京重機（東京）が日本ビクター（茨城）の健闘に苦しみ引き分け、2勝の大洋デパート（熊本）が優位に立った。最終戦で顔を合せた大洋×重機は大洋が存分に持てる力を発揮したのにひきかえ、重機は若さをのぞかせて動きが鈍く、意外の大差で大洋デパートの2連勝7度目の優勝が決まった。なお、閉会式で、世界女子選手権候補選手の第1回発表（19名＝本誌2頁参照）が行われた。（観衆・第1日＝約一千、第2日＝約二千、第3日＝約一千七百）

男子

大同製鋼（愛知）27（13―9 14―7）16 全日本学生

得	【大同】		【全日本学生】	得
0	柳川兄	GK	福井（中京）	0
0	倉谷	GK	柴田（法政）	0
5	野田	FP	山村（中央）	0
3	花輪	FP	細江（日体）	2
5	藤中	FP	喜井（日体）	0
5	中井	FP	村田（法政）	3
5	松原	FP	菊地（早稲田）	3
3	加藤	FP	中村（大阪体大）	7
1	柳川弟	FP	柳（法政）	0
0	北村	FP	津川（大阪経大）	0
0	吏谷	FP	牧野（同志社）	0
0	守田	FP	夏目（中京）	1
27	（1）	7MT	（3）	16

（審・光島・山本）

○……大同の先取点でスタートしたが、学生も中村が絶妙のシュートをみせ応戦、ゲームは24分まで一進一退を続けるデッドヒートになった。しかし大同は攻守にまとまりがよく、学生の凡ミスを効果的に野田が決め、また藤中、中井の好リードでチャンスをつかむや相手ディフェンスの上からおおいかぶさるような強烈なシュートをたたきつけ、前半13―9とリードを保った。

○……後半、学生はすぐに1点を返したが、肝心のところで7MTを落し、逆に大同は中井、野田らオリンピック代表が観衆をうならせるような素晴らしい好シュートを放ち、休みない攻撃を展開、学生に反撃のスキを与えず、危げない試合運びで1勝をあげた。

大同のソツのない大小のアクセントをつけた攻撃は見事であった。学生は矢張り選抜という意識が連けいプレーの好機をつぶしていた感じ。ディフェンスも足のスピードが欠けていたし、二段三段の攻撃を止められなかったのが敗因。個人的に異彩を放つシュートがみられたのはよかった。（小西博喜）

湧永薬品（大阪）19（9―3 10―7）10 全日本教職員

得	【教員】		【湧永】	得
0	大村	GK	今井	0
0	本田	GK		
0	笠原	FP	市原	1
3	松岡	FP	木野	6
0	氷海	FP	田中	2
1	浅原	FP	森	5
2	池本	FP	高橋	5
1	高橋	FP	戸田	0
2	福井	FP	大山	0
0	早川	FP	松井	0
0	河原崎	FP	松岡	0
1	樫塚	FP	菅	0
10	（0）	7MT	（0）	19

（審・藤原・狩野）

（所属）教員・大村（茨城教員）、氷海、笠原、浅原（ともに千葉教員）、松岡（スワロー兵庫）。その他の選手はいずれも大阪イーグルス。

○……湧永は木野の好シュートで先制、混成のもろさをあらわしコンビネーションの悪い教員を最後まで寄せつけず圧勝した。

教員は前半なかば、速攻でいったんは逆転したが、13分すぎ浅原早川が退場を食い、湧永はこの機を利用して木野、市原、森、高橋らが着実にポイント、大差をつけた。セット攻撃と速攻がうまくかみ合った湧永に対し教員は個人技に走り、パスワークのみだれと動きのスピードに欠け、単調な攻めに傷口を大きくした。

○……後半、教員は福井の好シュートをきっかけに反撃に転じ松岡、池本の得点で15分11―8と肉迫したがこれが精一杯。7MTの再三のミスとあせりがシュートとディフェンスに見え、早川二度目の退場（5分）で万事休した。

○……勝負が決った20分以後は湧永の一方的な速攻とポストプレーの前に、ねばりを失った教員はなす技もなく敗れ去った。

教員の主力は、大阪府内の公式戦で二連勝している大阪イーグルスだけに好ゲームが予想されたが、この大会をめざして意欲を燃やした湧永の気力がこの得点差となったようだ。

湧永・木野、教員・GK本田の気合の入ったプレーが印象深い。（新村理文）

大同製鋼 27（15―6 12―11）17 全日本教職員

（所属）教員・北山（スワロー兵庫）市田、安達（ともに大阪イーグルス）

○……上昇一途の勢を見せる大同

得	【大同】		【教員】	得
0	柳川兄	GK	本田	0
0	倉谷	GK	大村	0
3	野田	FP	北山	0
4	中井	FP	松岡	1
6	藤中	FP	氷海	1
2	加藤	FP	浅原	1
4	松原	FP	福井	6
3	花輪	FP（審・新村、東）	樫塚	2
4	柳川弟	FP	早川	4
1	北村	FP	安達	0
0	守田	FP	池本	1
0	更谷	FP	市田	0
27（2）		7MT		（2）17

製鋼は、藤中、野田、中井、花輪らのナショナル選手を軸に松原、加藤らの定評あるアタッカーが加わり、随所に強力な攻防を展開し終始危な気のない試合運びで教員選抜を圧倒した。

単独チームと混成選抜チームの長所短所を如実に示した場面が多く、教員チームには「決定的シュート」とそれにつながる「パスエンドラン」のコンビネーションに明らかなまとまり不足がみられたのは、他の技倆からくらべても惜しまれる。大同は徹底的に力のハンドボールで押しまくり、藤中、中井の射点の高いシュートはさすがと思わせる場面が多く、四月の対FAゲッピンゲン戦の経験も十分に活かした動きに、教員は防戦一方に奔走させられ、自己のペースを失わせられる結果となった。ただ後半にいたって、大同にも一時たるみがおこり、その間教員チームにも持ち前の速攻の冴えた時期あり、福井、池本（大阪イーグルス）らのシュートは目立つものがあった。しかし効率的にはあまり良くなく、チーム練習の時間がもう二、三日でもあればもっと面白い試合内容であったろうにと惜しまれる。（光島磯雄）

勝敗表

（男）	大	湧	教	学	P	得	失
①大同	…	○	○	○	6	70	48
②湧永	●	…	○	○	4	51	40
③教員	●	●	…	○	2	46	56
④学生	●	●	●	…	0	40	63

（女）	洋	重	ビ	学	P	得	失
①大洋	…	○	○	○	6	37	19
②重機	●	…	△	○	3	41	34
③日ビ	●	△	…	○	3	30	25
④学生	●	●	●	…	0	23	53

Pはポイント

湧永薬品 17（5－9, 12－5）14 全日本学生

得	【湧永】		【学生】	得
0	今井	GK	福井	0
		GK	柴田	0
2	市原	FP	山村	0
5	木野	FP	細江	3
1	田中	FP	村田	1
1	森	FP	菊地	1
8	高橋	FP（審・小西、藤本）	川畑	1
0	戸田	FP	中村	5
0	松井	FP	柳	0
0	大山	FP	津川	3
0	松岡	FP	牧野	0
0	菅	FP	夏目	0
17（4）		7MT		（2）14

（所属）学生・川畑（早稲田）。

○……学生は中村の先取点で気勢をあげたが、荒い守りがたたり7MT2本をとられてリードを許した。

さらに10分すぎから木野、高橋に対しマン・ツウ・マン戦法を採り「4名対4名の試合」となる奇妙な展開をみせたが、学生は湧永のみせるエイント攻撃にあっさり3点をとられこの作戦は不成功に終った。これで湧永はゲームの主導権を握ってしまい、速攻、スカイプレーと多彩な攻撃を見せて12—5と大差を開いて前半を終った。

○……後半、学生は前半の大量点差に元気なく湧永のペースでずるずると押し切られてしまいそうであった。

残り時間5分頃より力をセーブした湧永ディフェンスをついて速攻から連続ゴールしたが、大勢をくつがえすにはほど遠かった。

若さとパワーを誇る学生は、韓国遠征を経ての参加だけにチームプレーにも不安なし、とみられながら湧永のペースに完全にはまりこんでしまい、終盤5分間だけの〝若さ〟を発揮したにとどまったのは一考して欲しい。（藤原　豊）

全日本教員 19（9－7, 10－3）10 全日本学生

得	【教員】		【学生】	得
0	本田	GK	福井	0
0	大村	GK	柴田	0
3	笠原	FP	中村	2
4	氷海	FP	菊地	2
5	早川	FP	津川	0
1	樫塚	FP	夏目	2
3	安達	FP	村田	0
0	高橋	FP（審・藤原、狩野）	柳	2
0	市田	FP	細江	2
1	河原崎	FP	喜井	0
0	松岡	FP	牧野	0
2	福井	FP	山村	0
19（3）		7MT		（1）10

○……大会前は「優勝」の呼び声のかかった両チームだったが、やはり〝選抜〟の難しさか前日までともに2敗。しかし、この試合はたがいにのびのびと戦い、好プレーの多い試合を展開した。

先制したのは学生だったが、教員はすぐ追いつき、さらに5分以後13分までに連続4ゴール、その後も攻撃の手をゆるめず20分には7—2と開いた。特に16分、GK大村—安達とつないだパスプレーは大会屈指の美技といえスタンドをどよめかした。

学生もサイド—サイド—中央とまわす得意のスカイプレーなどで反撃を試みたが、大村の堅守にあって点差はつまらなかった。

○……後半も教員が着実したのに対し、学生は相手の固いディフェンスを切りくずせず、チャンスにパスミスなどもあり完敗だった。

オールスター・チームはいったん波にのると破壊的な力を示すが一つ歯車が狂うと、個人技だけの目立つ単調なチームになってしまう。将来に富んだ学生界の花形揃いだけに、もう少しピリッとしたところを見せて欲しかった。（藤木　昇）

大同製鋼、32連勝とぐ

大同製鋼 16（6－8, 10－7）15 湧永薬品

○……国内最上位にある両チームの対戦にふさわしく、互いに得点機を逃さぬ好試合だった。

序盤は湧永のペース、木野、戸田の好判断と伏兵・田中の活躍で先行した。しかしスピードに優る大同は、残り5分から一気の反撃を実らせ3点のアヘッドを奪った。

得	【大同】		【湧永】	得
0	柳川兄	GK	今井	0
1	中井	FP	市原	2
0	藤中	FP	森	0
6	松原	FP	高橋	5
3	花輪	FP（審・光島、山本）	戸田	2
1	加藤	FP	田中	3
4	野田	FP	木野	3
1	柳川弟	FP	大山	0
16（1）		7MT		（2）15

○……後半も勢いづいた大同が花輪、松原の迫力ある攻撃で10分には14—9と開き、大勢を決めたかにみえた。ところが、老巧な湧永はじっくりと追いあげにかかり、市原、戸田、高橋らが確実にポイント。守っても、一息ついたような大同の攻撃を容しゃなくはじき返して10分から10分間無得点に封じこみついに20分14—14のタイ、スタンドを沸かせた。

○……奮起した大同は21分中井、22分野田がいずれも速攻から決め16—14と再びリードしたのだがエキサイトした守備がつづき23分すぎ花輪が、25分には藤中が退場を命ぜられ、一時は4人でプレーするピンチを招いた。これで場内の熱気はいちだんと高まったが後半はじめのスパートに力を出しつくしたか湧永は出足が鈍く、必死にキープする大同からボールを奪えず、29分20秒市原のゲットで1点

差にしたもののタイムアップとなった。両チーム全力を出し切る壮烈な試合であった。（狩野幸介）

女　子

東京重機 24（13―3，11―6）9 全日本学生
（東京）

	【重機】	得	【学生】	得
GK	三紙	0	松井	0
GK	柘植	0	堀川登	0
FP	牧野	3	畑中	4
FP	古佐原	4	松本み	1
FP	市川	4	藤山	2
FP	鈴木	3	坂本	0
FP	生井	2	木元	0
FP	菊地	4	堀川景	1
FP	折口	2	松本良	1
FP	村上	1	小林	0
FP	岡部	1	西田	0
FP	渡辺	0	坂上	0

（審・小西、藤本）

9（3）7MT（3）24

（所属）学生・松井、畑中（ともに東教大）、堀川登、堀川景（ともに大阪体大）、西田（東女体大）、その他の選手はいずれも日体大。

○……重機はベテラン牧野を中心によくまとまり速攻、遅攻を自在に使い分けて市川、菊地らが鋭いシュートを決め着実に加点、守っても早いつぶしで学生につけいるスキを与えなかった。

学生もなんとか一矢をと最後まで頑張ったが、体力不足からくるパスミス、キャッチミスがつづいてはどうにもしようがない。（山本孝男）

大洋デパート 9（2―0，7―4）4 日本ビクター
（熊本）（茨城）

○……詰めの甘さでなかなか両チームとも得点をあげられず、14分になってやっと大洋が垂水で1点、さらに山下の巧技で2点目をあげて前半を終った。

	【日ピ】	得	【大洋】	得
GK	渡辺	0	小原	0
GK	鈴木	0	森山	0
FP	池田	0	垂水	3
FP	阿部	0	米	0
FP	谷沢	0	加子崎	0
FP	滝	0	島田	1
FP	額賀	1	蔵田	2
FP	高野	2	植原	0
FP	川崎	0	石井	0
FP	加藤	1	篠田	1
FP	丸山	0	山下	1
FP	蓮見	0	矢田	1

（審・新村、東）

9（1）7MT（1）4

○……後半も大洋デパートが1分、3分とゴールキーパーのボール出しの巧妙さに速攻が生きたのに対し、ビクターは走ってもカラ走りとなり、ボールのつなぎも悪くどうしても得点することができなかった。ようやく5分大洋デパートのGK小原が、強引に相手のGKが速攻へ出すロングパスをカットしようとして不成功に終りノーマークとなったゴールを成功させ1点をとった。しかし大洋はその後も速攻に加えセットの歯車が合いはじめて加点、ビクターは池田が足のネンザで途中退場したこともあって反撃らしい反撃も見せぬまま押し切られた。大洋の老巧さがビクターの若さを制したともいえる。（藤原　豊）

東京重機 12（6―8，6―4）12 日本ビクター
引き分け

○……息づまる好試合。後半22分12―12に追いついた重機はタイムアップ寸前7MTを得て、勝負あったと見えたが、古佐原が〝狙いすぎ〟て落とし引き分けた。

	【日ピ】	得	【重機】	得
GK	渡辺	0	三紙	0
GK	鈴木	0	柘植	0
FP	池田	3	牧野	5
FP	蓮見	0	村上	1
FP	加藤	2	古佐原	3
FP	谷沢	1	鈴木	2
FP	額賀	2	市川	1
FP	高野	4	菊地	0
FP	滝	0	折口	0
FP	川崎	0	岡部	0
FP	丸山	0	生井	0
FP	阿部	0	渡辺	0

（審・光島、山本）

12（1）7MT（1）12

前半は重機が快調にすべり出し7分早く4―1もと主導権をうばった。しかし、この日のビクターの攻撃はすばらしく山田の7MTを口火に速攻につぐ速攻で相手ディフェンスをかくらん、20分額賀のFTで6―6、さらに23分谷沢24分高野のゲットで8―6と逆転球趣をもりあげた。

○……後半、ビクターはスローオフの攻撃をフォーメイションから高野のとび込みシュートで決め、続いて加藤のロングとたちまち10―6と引き離した。しかし、4点の大差が浮き足だっていた重機をかえって落ちつかせた。当りの弱くなったビクターのディフェンスをうまく攻め、11分牧野、12分鈴木、14分牧野、16分市川と早い動きと巧みなシュートでポイント、同点に持ち込み、残る7分の戦いとなった。ビクターは20分、貴重な7MTを池田が決め先行し逃げ切るかにみえたが、23分重機はエース牧野の闘魂のジャンプシュートで三たび同点とした。女子のゲームとしては久々に見るすばらしい一戦であった。（東　嘉伸）

大洋デパート 15（9―2，6―8）10 全日本学生

	【学生】	得	【大洋】	得
GK	松井	0	小原	0
GK	堀川登	0	森山	0
FP	畑中	3	垂水	2
FP	松本み	4	米	0
FP	坂本	1	加子崎	0
FP	木元	0	島田	5
FP	藤山	2	蔵田	4
FP	坂上	0	植原	0
FP	小林	0	石井	1
FP	西田	0	篠田	3
FP	堀川景	0	山下	0
FP	松本良	0	矢田	0

（審・藤原、狩野）

15（1）7MT（1）10

○……気力に充実した大洋は垂水を軸に島田の速攻を折りまぜ15分までに7―0とたたみこんだ。

学生は大洋の固い守りをどうしても破れず、むやみに横ローリングを重ねるだけでゴールにならない。しかもせっかくつかんだ得点機をミスプレーで失うなどしていた。

○……後半、大洋が若手を次々とくり出し、コンビが崩れたスキをついて15分には7―11と迫ったが前半の失点はあまりにも大きかった。大洋はベテラン揃いらしく、相手の調子の波を巧みにたち切るなど、味のある試合運びだった。（小西博喜）

日本ビクター 14（7―2，7―2）4 全日本学生

○……ビクターは得失点差で2位を一応のぞめるとあってハナからスパートした。

	【学生】	得	【日ピ】	得
GK	堀川登	0	渡辺	0
GK	松井	0	鈴木	0
FP	畑中	1	高野	4
FP	松本良	1	加藤	1
FP	堀川景	0	谷沢	1
FP	坂本	2	蓮見	3
FP	藤山	0	阿部	2
FP	小林	0	池田	1
FP	坂上	0	額賀	2
FP	安井	0	滝	0
FP	木元	0	丸山	0
FP	松本み	0	川崎	0

16（1）7MT（1）4

一方の学生は時おりロングをとばすが全般的にパス、シュートとも甘くゴールを割れない。

○……後半、学生は坂木のミドルで3―7とし期待をもたせたが、その後はみるべきものがなく、ビクターの一方的な試合となった。

6分谷沢にはじまり高野、額賀らが連続して決めた速攻や、15分すぎの加藤のポスト、池田の力感あふれたロングなどは特にすばらしかった。

学生は混成とはいえ、男子同よう韓国遠征直後の大会であり、練習もかなりつんでいたハズだが、動きが鈍く、判断の悪いプレーが再三みられ、実業団に比べシュート力、気力とも劣っていたのは残念である。（東　嘉伸）

大洋、後半一気に攻撃

大洋デパート 13（5―3，8―2）5 東京重機

○……優勝をかけた一戦とあって互いにゆずらず、8分に重機が牧野の左45度から豪快なシュートを決めて先行したが、その後は11分

得	【重機】		【大洋】	得
0	三紙	GK	小原	0
0	拓植	GK	森山	0
3	牧野	FP	垂水	5
0	古佐原	FP	米	0
1	市川	FP	加子崎	0
0	鈴木	FP	島田	3
0	生井	FP	蔵田	2
1	菊地	FP	植原	0
0	折口	FP	石井	0
0	上村	FP	篠田	0
0	岡部	FP	山下	2
0	渡辺	FP	矢田	1
5	(0)	7MT	(4)	13

（審・新村 東）

まで両チーム得点なく1—0のままという緊迫したゲーム、しかし大洋は島田のステップシュートでかえし、18分、22分に7MTを垂水が決めて逆にリードを奪った。

○…後半は前半とかわって、大洋のすばらしい出足が目立った。6分30秒まで立てつづけに6点を連取し、大洋本来のペースをとりもどした感じだった。全員がよく走りパスのつなぎもよく、重機ディフェンスの間隙をうまくねらい緩急自在の試合運びでゲームの主導権を完全に握った。GK小原の球出しは特にみごとなデキだった。逆に重機は7MTをはずすなど大事なところで手痛いミスを出し、反撃のチャンスを逸してしまった。勝たなければならない意識がプレーをやや固くしてしまい、実力をフルに活かせず波に乗り切れないままに敗れた。立ちなおりを期待したい。

（藤原　豊）

ハンドボールはモントリオール五輪 7月23日から

フランスのスポーツ紙〝レ・キップ〟は6月26日付の紙面で、モントリオール発の報道として一九七六年（昭51）のモントリオール・オリンピックの日程案を発表。それによるとハンドボールは7月23日から7月29日または31日までとなっている。

モントリオール大会のハンドボールについて具体的な報道にふれたのは日本協会はこれが初めてである。男女開催かどうかは、いぜん詳らかにされていない。

次回の世界学生選手権

3〜4年に一度開かれている世界学生選手権は昨冬スウェーデンで第5回大会が開かれたが（本誌既報。優勝ルーマニア）次回についてヨーロッパのハンドボール関係者は、モントリオール・オリンピックとその予選期日などから一九七五年（昭50）又は七六年の一月上旬になるだろうとみている。日本は第1回以外参加していない。

NHK杯に拾う

○…男子の4チームはどこが優勝してもおかしくない布陣。

とりわけ、教員、学生のオールスターチームには期待があった。

教員は全員が日体OB、往年の「全日体」の復活なるか、と報道関係の注目も集った。

学生は次代のナショナルを荷うべき新鋭ぞろい。抜群の力を示すようならそのまま来春の世界選手権へ出したらどうか、といった声も日本協会役員の一部にあったほどだ。

○…結果は単独、混成の明暗があまりにもはっきりしてしまった。裏返せば、単独実業団の意地の勝利ともいえた。優勝候補の一番手にあげられていた大同の野田コーチ兼選手は、はじめから「なんだかんだといっても出てくるのは湧永ですよ」といっていたがピックアップチームのもろさをつく自信があったのだろう。

○…野田の言葉はつづく。「木野さんがすごいンです」。

学生時代から〝燃える木野先輩〟の怖さを知りつくしている。

主戦メンバーが変らぬうえ柱の一人・早川が大阪イーグルスへ転籍、今シーズンの湧永薬品は苦戦が予想されていた。

「よしっ」と気を引きしめなおした木野をみて、野田はやはり〝自分の予想〟の確かさを知った。

○…〝決勝〟を私は、大同×湧永として見ず、野田×木野として眺めていた。両闘将のリードで、大同の藤中、加藤、中井、花輪、松原らが躍り、湧永の森、市原、高橋、戸田、田中らが動いた。

近来にないいい試合だった。テレビでこのゲームを見ていた人も熱気を感じた、という。

実力伯仲のつばぜり合いを抜け出す最後の決め手は、やはり気力であり、まとまりであり、リーダーであることをこの大会（男子）は教えたように思う。

のびのびとした大洋デパート

○…大洋にとって、「今年は、のびのびといけそうです」といっていた井蕪監督の言葉どおりの大会であり、ゲームだった。

去年は〝連勝記録〟がやはり重荷。暮れの全日本総合で東京重機にストップされ、かえって気軽になった。

「必ず勝たなくてはと思って試合するのはきつい」といっていた選手たちが生き生きとしてきた。

もともと、力はある、技はある、勝つスベも他チームとは比べものにならぬほど知っている。

○…一つずつ年をとったハズの垂水、米、小原、島田らがむしろ若返ってみえた。井監督も「負けるより勝つほうがいいなぁ」と落ち着いたものだ。私は「新しい連勝記録がはじまりそうだね」といいかけてやめた。

せっかくの彼女たちのすてきな顔が、緊張してしまいそうに思えたからである。

（杉）

合織糸・合織混紡糸

田村紡績株式会社

社長　田　村　正　衛

四日市市東茂福町10－17
TEL 0593―65―2156（代表）
郵便番号　512

指導者養成の急務を示唆

～愛知県中学校アンケートから～

「王国」でも実施校は3割未満

中学対策の促進が望まれている折、このほど愛知協会が県下の中学校306校（回収182校）に対し「中学ハンドボールに関する調査（アンケート）」を行った結果が、同協会・西川勤也常任理事から本誌へ寄せられた。今後の日本協会の普及施策にいくつかの示唆を与えている。（結果を示す数字は校）

1. 運動領域で球技・ハンドボールを実施していますか。

実施している……男39、女49
実施していない……116
48年度より実施したい男7、女9

（実施していない）と答えたかたに――実施していない理由は？

ゴールがないから……103
ルールを知らないから…回答なし
ルールが難しいから……回答なし
その他＝サッカー、バスケットボールを実施しておりハンドボールを行う時間がない……79

2. クラブ活動について。現在ハンドボールを実施していますか。

実施している……男75、女62
実施していない……110
今後実施したい……男6、女4

（実施している）と答えたかたに――各種大会には参加していますか。

参加している……男70、女59
参加していない……男5、女3

3. その他のご意見をお聞かせ下さい。

◇運動領域についての意見
・バスケットボールについでよい教材と思うので今後実施したい。
・女子においては冬期の教材としてよいと思う。
・運動量、技術面において適当な教材である。
・投力養成のため必要な教材である。
・ゲーム的要素をバスケットボール的に考えたほうがよい。
・バスケットボール、サッカーが一般に普及しているため実施の必要がない。
・小学校において男子のサッカーに対し、女子はハンドボールを教材としてとりいれるよう協会として運動して欲しい。
・協会で指導学習研修会を開催してほしい。

◇クラブ活動についての意見
・指導者講習会を開催してほしい
・場所の関係で実施は困難である
・ルールをもっと厳しくする必要があると思う。

◇県協会に対して……
・指導者養成に尽力を
・講習会の実施を
・ハンドボールのPRが少ない。
・審判講習会の開催を

◇その他の意見
・生徒の投力からして危いと思うのでボールを軽くして欲しい。
・ハンドボールの普及、底辺拡大を活発にして欲しい。

◇

ハンドボール王国といわれる愛知県において体育学習指導要領にハンドボールを採り入れている学校数が2割に満たず、クラブ活動の実施校も2割5分という数字をまのあたりにして、他競技に対し後れをとっていることを痛感。

今後、愛知県では研究会や講習会を開き指導者の養成を企りたい

日本ハンドボール協会においても「ハンドボール・テキスト」を中心として各地に普及部が出張し普及活動をすることが地方における指導者の養成につながると思う

（西川勤也・愛知協会常任理事、同小中体連部長）

高体連25周年記念バッヂをどうぞ

全国高体連ハンドボール部は来年に創立25周年を迎えるが、その記念事業の一つとして、このほど「記念バッヂ」の頒売を決め発表した。

それによると同品は高体連のスローガンであるKRAFT（力）、KUNST（技）、KLARHEIT（明朗な精神）の三つのKを地（赤色）に、ハンドボールを示す「H」（白色）を金線でふちどるシンボルマークが七宝仕上げされているもので（＝カット写真・原寸）ピン付き、ネジ付きの二種類。頒価は一個80円、各都道府県高体連ハンドボール部で申しこみを受けつける。

ぜひお買求め下さい。

男女とも強豪勢揃い
全日本実業団選手権近づく

第14回全日本実業団選手権（日本実業団リーグ）は女子の部が7月4日から8日まで岐阜県民体育館で、男子の部が11日から15日まで熊本市体育館で行われる。男女とも国内最上位にランクされる一流チームが勢揃い、世界選手権候補選考の最終チャンスでもあり、内容豊かな好試合が期待される。（杉山）

バランスとれた大洋、重機

◇女子（3チームづつ3組の予選リーグ、各組上位2チームによるベスト・シックスで決勝リーグ）

常勝を誇っていた大洋デパート（熊本）が、昨冬の全日本総合で敗れて以来、急に各チームの実力差がせばめられた感じがするから不思議だ。

焦点はNHK杯（6月）で優勝を争った大洋と東京重機（東京）が、どのような試合ぶりを示すかだろう。両チームの特色は新旧の力がうまく溶けあっていることだ。女子の場合これは大きな武器である。ベテランたちの力が若手とかけはなれてしまっていると一本調子の試合しかできない。

NHK杯では重機が先制しながら大洋の反撃を許したが、実力は全く伯仲している。

田村紡(三重)ブラザー工業(愛知)、日本ビクター（茨城）、大崎電気（埼玉）など決勝リーグ進出を有力視されているチームもたしかに強いし、好チームだと思う。ただ重機、大洋に比べると、チームとしてのたくましさ、新旧のバランスで劣る。女子実業団の〝闘い〟は技だ、作戦だなどということをこえて、このようなレベルでの優劣が勝負に影響するほどの激しさなのである。

中央初登場の日立栃木にも注目したい。ここでの試合ぶりが大げさにいえば、今後のこのチームの消長につながる。6強へのカベは厚いが、肉薄して欲しい。

地味な動きをつづける東北ムネカタ（福島）と扇屋（千葉）も軽視できぬ力を備えてきている。

なお、今年からクラブ的実業団のために別部門が設けられ伏原紡織、豊田工機(ともに愛知)、日本耐酸壜(岐阜)、自衛隊朝霞(東京)の4チームが集る。トップチームとの戦力差に尻ごみして、これまでもいくつかの女子実業団の芽がつまれている。この企画、拍手を送りたい。

〝打倒・大同〟に燃える各チーム

◇男子（4チームずつ2組の予選リーグ、各組上位2者で決勝リーグ、同下位2者で5位決定リーグ）

誰に聞いても今年の大同製鋼（愛知）は「強い」という。全日本級のというより国際級の実力者が並ぶ。中井、野田、藤中、花輪(中大)、松原、加藤、GK柳川兄。スキがない。もともと闘志にあふれた攻撃型のチームだ。4月のギョッピンゲン戦ですばらしい守りをみせいっそう自信をつけた。

それならば2連勝は不動か、というとそうでもない。大同の強気をつく巧者がズラリと揃っているからである。

例えば5月の東海実業団（名古屋）決勝で、本田技研（三重）は大同の押しをかわし勝利を握りかけている（本誌30頁参照）。相手のリズムをたち切り自分のペースに引きずりこむ巧さにかけて湧永薬品（大阪）、大崎電気（埼玉）、三景（東京）らは定評がある。三菱レ大竹（広島）も満を持しての登場であり、トーナメント(別掲)から勝ちあがって来た日新製鋼呉（広島）セントラル自動車（神奈川）にしても簡単には引きさがるまい。

ここに顔を揃えた8強はいずれも日本のナンバー・ワンになるのが目標。学生界が足ぶみ状態の現況で、実業団を制することは大課題へ一歩近づくことにつながる。厚く大きなカベの存在は当然と受けとっているチームばかりだ。大同が強いと聞き、優勝候補の一番手と聞けば、いっそう闘志を燃やし、その打倒に力を注ぐわけである。

大同のチーム力が優れていれば優れているだけ、展開される試合内容は盛りあがろう。

トップレベル拡充を強く印象づけさせるエキサイトした大会になりそうだ。

女子予選リーグ組み分け

▽A組　大洋デパート，ブラザー工業，東北ムネカタ
▽B組　東京重機工業，大崎電気，扇屋
▽C組　田村紡，日本ビクター，日立製作所栃木
・各組上位2チームが「決勝リーグ」へ
・各組3位により「7～9位リーグ」

男子予選リーグ組み分け

▽A組　大同製鋼，三景，本田技研，セントラル自動車
▽B組　大崎電気，湧永薬品，三菱レイヨン大竹，日新製鋼呉
・各組上位2チームが「決勝リーグ」へ
・各組下位2チームが「5～8位リーグ」へ

日新製鋼呉
セントラル自動車
上位リーグへ

～全国実業団トーナメント～

昭和48年度（第5回）全国実業団トーナメント～男子のみ～は6月17日から20日までの4日間福井市体育館（17、18は北陸電力福井体育館併用）に全国17都府県から32チームが参加して行われた。緒戦で優勝候補の住友化学菊本（愛媛）が登録外選手を起用して没収負けしたのを発端に、2連勝を狙う大山商会（大阪）有力とみられた日本発条（神奈川）丸善石油下津（和歌山）がいずれもベスト8を前に敗退する波乱つづいた。結局決勝は日新製鋼呉（広島）とセントラル自動車（神奈川）で争い日新が初優勝を飾った。日新とセントラルは7月11日から熊本で開く日本実業団リーグへの出場権を得た。

丸善石油下津敗れる
住化菊本も不覚の失格

▽1回戦

三菱油化（三重） 没収試合 住友化学菊本（愛媛）
大阪ガス（大阪） 19（13―8、6―8）16 金沢市役所（石川）
セントラル自動車（神奈川） 32（20―7、12―1）8 日本耐酸壜（岐阜）
境港市役所（鳥取） 20（12―6、8―9）15 富士レジン（兵庫）
日本発条（神奈川） 27（14―10、13―7）17 海上下総（千葉）
神戸製鋼（兵庫） 26（13―6、13―3）9 小松製作所（石川）
二和家具（岐阜） 20（16―6、13―3）9 静岡日野自動車（静岡）
武田薬品光（山口） 31（20―5、11―8）13 安田生命（東京）
新日鉄名古屋（愛知） 22（12―7、10―6）13 日進商会（神奈川）
日本合成ゴム（三重） 棄権 日本碍子（愛知）
北陸電力（福井） 33（20―2、13―5）7 三洋電機（岐阜）
トヨタ車体（愛知） 棄権 京都信用金庫（京都）
日新製鋼呉（広島） 22（15―9、7―5）14 丸善石油松山（愛媛）
川崎重工（兵庫） 18（9―8、9―9）17 日本鋼管福山（広島）
自衛隊勝田（茨城） 31（17―11、14―8）19 丸善石油下津（和歌山）
大山商会（大阪） 27（16―4、11―6）10 日本鋼管京浜（神奈川）

大山、日発も姿消す

▽2回戦

三菱油化 33（22―15、11―3）18 大阪ガス
セントラル自動車 16（10―3、6―3）6 境港市役所
新日鉄名古屋 18（7―7、11―6）13 武田薬品光
川崎重工 19（11―9、8―9）18 自衛隊勝田
神戸製鋼 22（11―8、11―7）15 日本発条
二和家具 23（13―6、10―2）8 日本合成ゴム
トヨタ車体 24（9―10、15―3）13 北陸電力福井
日新製鋼呉 16（11―8、5―5）13 大山商会

二和家具、ベスト4に

▽準々決勝

セントラル自動車 22（10―9、12―10）19 三菱油化
新日鉄名古屋 24（12―11、12―7）18 川崎重工
二和家具 14（6―7、8―6）13 神戸製鋼所
日新製鋼呉 22（12―7、10―7）14 トヨタ車体

セントラル、延長後に地力

▽準決勝

セントラル自動車 12（1―0、2―0：3―1、6―8）9 新日鉄名古屋
日新製鋼呉 14（6―5、8―4）9 二和家具

▽3位決定戦

二和家具 21（10―4、11―5）9 新日鉄名古屋

▽決勝

日新製鋼呉 12（7―5、5―5）10 セントラル自動車

【セ自】得
GK 片桐 0、吉賀 0
FP 羽毛田 6、加藤 0、渡辺 0、吉沢 2、布施 1、中村 1、真木 0

【日新】得
GK 三田 0、中野 0
FP 吹上 3、正岡 0、松木 0、下茂 3、沖谷 0、吉田 2、中川 4、村川 0、下西 0、越智 0

（審・青木、山口）

12（0）7MT（0）10

後記

○……決勝は両チームとも、激戦の連続からか疲れがのぞき、早い攻めはほとんどなくセットでの変化技の応しゆうとなった。前半一進一退から、後半は日新が僅かに押し気味、しかし、セントラルもよく粘り残り3分で10―10とした。日新はこのあと、ようやく得意の速攻がて27分10秒中川、さらに29分30秒下茂がゲット、羽毛田の捨て身のシュートで反撃するセントラルをふり切った。

○……1回戦から波乱つづきで、この大会を目指す参加チームの意気ごみを感じさせた。

FPを11人使ってしまい失格した住友菊本はともかく、前回優勝の大山商会、同3位の丸善石油下津、有力とみられた日本発条、日本鋼管福山らがベスト8を前に姿を消してしまったのは、必しも番狂せとはいえない。それだけ各チームの力が接近してきたのだ。

○……優勝した日新製鋼呉はすでに10年をこすキャリアのあるチーム。まじめな努力がみごとな花を咲かせたといえる。敬意を表したい。セントラルは2度目の準優勝、新たな闘志が燃えはじめたのではないか。

このほか二和家具の新鋭らしさ川崎重工、神戸製鋼所の堅実味、新日鉄名古屋の復調が目についた。また武田薬品光、丸善石油松山なども好チームで、もう少しその試合ぶりを見たかった。

○……ところで、この大会も5年目、実業団選手権（上位リーグ）への予備戦とみるか斯界唯一の〃社会人大会〃的色彩を濃くするか再検討すべき時期がきていると思う。

実連―日本協会の話し合いも必要なのではなかろうか。

今のままでは二つの全日本実業団選手権があるような感じで、報道関係もとまどい気味だ。その面でも得策ではないと思う。（X）

年次優勝チーム

▽昭44 宗形製作所（昭45・2）
▽昭45 湧永薬品（昭46・2）
▽昭46 住友化学菊本（昭46・6）
▽昭47 大山商会（昭47・6）

第24回 全日本高校各県予選記録（上）

☆　太字は代表校
☆　6月15日報告分まで

▽…推せん出場（前年度優勝校）

▽男子　中央大学附属（東京）
9年連続9回目の出場

▽女子　深谷女（埼玉）
8年連続9回目の出場

東北

▽…宮城県

▼男子1回戦（2試合）

仙台二 16—6 塩釜
築館 14—4 電子工

▽同2回戦

仙台商 11—4 仙台二
仙台 19—7 古川商
榴ケ岡 22—7 東北学院
古川 11—6 仙台一
仙台育英 14—6 東北
仙台三 13—7 祇園寺
古川工 20—5 鶯沢工
築館 10—7 宮城水産

▽同準々決勝

仙台育英 17—5 仙台商
古川工 16—8 榴ケ岡
仙台 13—11 仙台三
古川 10—7 築館

▽同準決勝

仙台育英 18—7 仙台
古川工 10—7 古川

▽同決勝

仙台育英 12—6 古川工

仙台育英高は2年連続2度目の代表

▼女子1回戦（2試合）

一迫商 12—8 塩釜女
古川商 8—3 古川女

▽同準々決勝

宮城二女 15—1 一迫商
祇園寺 12—0 宮城一女
宮城三女 13—1 仙台女商
涌谷 12—6 古川商

▽同準決勝

宮城二女 8—6 祇園寺
涌谷 6—1 宮城三女

▽同決勝

涌谷 5—4 宮城二女

涌谷高は4年連続21度目の代表

北信越

▽…福井県

▼男子準々決勝（＝1回戦）

北陸 15—5 高志
若狭 10—9 福井商
敦賀三 13—5 武生商
羽水 19—10 藤島

▽同準決勝

若狭 10（延）7 北陸
羽水 15—11 敦賀三

▽同決勝

羽水 18—7 若狭

羽水高は3年連続5度目の代表

▼女子1回戦（2試合）

若狭 9—4 藤島
武生商 13—3 高志

▽同準決勝

福井商 11—6 武生商
羽水 13—3 若狭

▽同決勝

羽水 13—7 福井商

羽水高は初出場

▽…富山県

▼男子1回戦（2試合）

小杉 20—8 大沢野
富山商 20—5 富山北

▽同2回戦

小杉 15—8 氷見
伏木 14—10 雄山
有磯 13—9 富山工
八尾 13—7 高岡日大
富山 21—3 高岡
二上 15—8 富山東
富山中部 21—8 滑川
高岡商 18—6 富山商

▽同準々決勝

小杉 17—7 伏木
八尾 11—7 有磯
富山 14—5 二上
高岡商 22—8 富山中部

▽同準決勝

小杉 15—12 八尾
高岡商 16—9 富山

▽同決勝

小杉 12—7 高岡商

小杉高は3年連続7度目の代表

▼女子1回戦（3試合）

富山女 18—3 高岡
高岡女 13—1 富山北
小杉 8—1 清光

▽同準決勝

有磯 14—3 富山女
高岡女 8—4 小杉

▽同決勝

高岡女 5—3 有磯

高岡女は3年ぶり7度目の代表

▽…新潟県

▼男子1回戦（1試合）

柏崎 23—3 新発田商工

▽同準決勝

柏崎工 16—6 巻
柏崎 12—9 明訓

▽同決勝

柏崎工 12—8 柏崎

柏崎工は2年ぶり7度目の代表

▼女子決勝リーグ

新潟女 13—2 明訓
巻 11—1 明訓
新潟女 5—3 巻

【順位】①新潟女②巻③明訓。

新潟女は2年連続2度目の代表

▽…長野県

▼男子予選リーグA組

上田 21—6 坂城
坂城 20—2 佐久
上田 16—2 佐久

▽同B組

北農 26—5 小諸商
屋代 22—5 小諸商
屋代 11—6 北農

▽同決勝トーナメント1回戦

屋代 10—3 坂城
上田 13—5 北農

▽同決勝

屋代 8—6 上田

屋代高は18年ぶり2度目の代表

▼女子決勝リーグ

美須丘 9—2 北農
小諸商 21—3 城南
北農 8—5 佐久
小諸商 15—4 美須丘
小諸商 32—1 佐久
北農 9—5 城南
美須丘 16—3 佐久
城南 12—3 佐久
美須丘 13—2 城南
小諸商 25—2 北農

【順位】①小諸商②美須丘③北農④城南⑤佐久

小諸商は12年連続12度目の代表

東海

▽…愛知県（中央大会）

▼男子1回戦

名城大附 26—4 城西
半田 18—9 愛知工

一宮 15－10 中京
旭丘 10－6 一宮西
熱田 17－11 西尾
豊橋工 9－6 春日井
岡崎工 18－14 豊橋商
桜台 23－9 蒲郡東

▽同決勝リーグ進出校決定戦

半田 14（延）12 豊橋工
旭丘 10（延）7 桜台
名城大附 29－14 熱田
一宮 16－12 岡崎工

▽同決勝リーグ

名城大附 14－8 半田
一宮 9－6 旭丘
名城大附 11－5 一宮
半田 12－11 旭丘
半田 12－8 一宮
名城大附 10－5 旭丘

【順位】①名城大附属②半田③一宮④旭丘。名城大附属高は6年ぶり4度目の代表

▼女子1回戦

高蔵 6－2 松蔭
一宮 13－4 蒲郡
国府 13－3 瀬戸
尾北 棄権 中川商
岩津 5－2 淑徳
名短大附 8－2 刈谷北
西尾 棄権 若宮商
市邨学園 22－10 岡崎商

▽同決勝リーグ進出校決定戦

西尾 6－4 高蔵
名短大附 20－6 国府
一宮 8－4 岩津
市邨学園 15－1 尾北

▽同決勝リーグ

西尾 8－4 一宮
市邨学園 6－5 名短大附
市邨学園 8－2 西尾
一宮 7－4 名短大附
西尾 7－3 名短大附
市邨学園 5（分）5 一宮

【順位】①市邨学園②西尾③一宮④名短大附属。市邨学園高は2年連続、名女商時代から通算10度目の代表

▽…静岡県

▼男子1回戦（2試合）

裾野 21－9 静清工
吉原商 棄権 春野
富士 棄権 天竜林

▽同2回戦

静岡農 18－8 裾野
修善寺工 18－9 静岡東
三島南 14－12 気賀
御殿場南 23－4 吉原商
沼津工 10－9 二俣
清水東 14－9 御殿場
浜松南 15－8 沼津東
清水商 15－9 富士

▽同準々決勝

静岡農 8－6 修善寺工
御殿場南 14－9 三島南
清水東 13－10 二俣
清水商 8－7 浜松南

▽同準決勝

静岡農 6－5 御殿場南
清水商 14－11 清水東

▽同3位決定戦

御殿場南 17－9 清水東

▽同決勝

清水商 7－5 静岡農

清水商は7年連続21度目の代表

▼女子1回戦

藤枝西 8－3 裾野
清水女 5－3 周智
御殿場 6－2 二俣
清水商 14－1 富士宮東
静岡城北 11－3 沼津女

▽同準々決勝

清水西 13－0 藤枝西
清水女 3－1 御殿場
清水商 5－4 吉原
静岡城北 4－3 浜松南

▽同準決勝

清水西 2－1 清水女
清水商 7－6 静岡城北

▽同3位決定戦

清水女 2－1 静岡城北

▽同決勝

清水商 4－3 清水西

清水商は5年ぶり2度目の代表

近畿

▽…奈良県

▼男子1回戦

榛原 13－9 桜井商
生駒 6－5 添上
郡山 12－7 畝傍
奈良 14－5 奈良工

▽同準々決勝

榛原 20－10 育英
生駒 16－5 一条
東大寺 14－7 郡山
奈良 18－3 正強

▽同準決勝

生駒 15－3 榛原
奈良 7－2 東大寺

▽同決勝

生駒 13－2 奈良

生駒高は初出場

▼女子準々決勝（＝1回戦）

添上 24－2 生駒
郡山 13－4 十津川
一条 棄権 短大附
桜井商 13－3 榛原

▽同準決勝

添上 6－5 郡山
一条 15－7 桜井商

▽同決勝

添上 12－3 一条

添上高は2年連続6度目の代表

▽…大阪府（第1次予選）

▼男子1回戦

八尾 13－7 摂津
北淀 9－7 茨木
城東工 38－7 淀川工
三国ケ丘 34－4 三島
花園 18－14 東淀川
都島工 12－6 大阪学院
泉陽 10－6 清風
東住吉工 棄権 大阪市立
佐野工 19－8 天王寺
高津 10－9 富田林
東豊中 17－6 和泉
此花学 15－3 四条畷
大商 17－6 浪商
池田 11－10 門真
春日丘 14－3 成器
北野 13－9 上宮
桃山 棄権 鶴見
寝屋川 18－13 和泉工
東住吉 19－5 山本
鳳 13－9 堺工
豊中 棄権 東淀工

▽同2回戦

枚方 8－5 八尾
都島工 18－14 住吉
岸和田 14－7 大商
北淀 10－6 泉陽
初芝 24－6 池田
城東工 17－15 箕面
高津 16－12 桜塚
春日丘 7－6 東住吉工
泉北 26－9 東豊中
北野 18－9 市立工芸
北陽 24－15 豊中
寝屋川 15－8 花園
桃山 19－6 千里
佐野工 18－7 東住吉
三国ケ丘 24－0 西野田
鳳 20－11 此花学

▽同3回戦

枚方 11－4 都島工
初芝 26－8 城東工
春日丘 － 高津
泉北 30－11 北野
北淀 没収試合 岸和田
北陽 14－4 寝屋川
桃山 13－9 佐野工
鳳 18－16 三国ケ丘

勝者8校は最終予選へ出場。

▼女子1回戦（1試合）
枚方5（延）3和泉
▽同2回戦
春日丘14―1鶴見商
四天王寺21―2城南
三国ケ丘9―0三島
門真棄権千里
枚方5―3東大阪
天王寺10―3池田
初芝5―1八尾
大谷18―1桜塚
梅花棄権樟蔭東
大谷18―1桜塚
住吉学園21―1豊中
大阪女短附7―5清友
岸和田15―2高津
愛泉18―3東住吉
寝屋川5―2鳳
福島女8―3泉北
箕面13―6食品産業
▽同3回戦
春日丘12―1四天王寺
門真10―4三国ケ丘
初芝5―4天王寺
枚方7―4梅花
大谷5（延）4住吉学園
岸和田10―2大阪女短附
愛泉9―3寝屋川
箕面7（延）4福島女
▽同4回戦
春日丘6―3門真
枚方6―3初芝
大谷13―2岸和田
愛泉5―3箕面
勝者4校は最終予選へ出場。

▽…和歌山県

▼男子予選ラウンドA組1回戦
笠田14―9市和歌山商
▽同2回戦
御坊商工15―2笠田
県和歌山商28―4吉備
▽同3回戦
御坊商工14―6県和歌山商
▽同B組1回戦
耐久15―10箕島
粉河14―10桐蔭
▽同2回戦
那賀29―10耐久
新宮10―7粉河
▽同3回戦
新宮20―12那賀
▽同敗者復活戦・A組
市和歌山商26―3吉備
市和歌山商10―8笠田
県和歌山商14―9市和歌山商
▽同B組
桐蔭15―6耐久
粉河18―2箕島
桐蔭15―11粉河
那賀20―12桐蔭
▽同決勝トーナメント1回戦
御坊商工16―6那賀
新宮13―4県和歌山商
▽同3位決定戦
那賀22―12県和歌山商
▽同決勝
御坊商工24―5新宮
御坊商工は初出場。
▼女子予選ラウンドA組1回戦
笠田6―4県和歌山商
▽同2回戦
粉河22―2笠田
▽同B組1回戦
新宮11―3貴和
御坊商工棄権大城
▽同2回戦
御坊商工6―2新宮
▽同敗者復活戦・A組
県和歌山商8―5笠田
▽同B組
貴和棄権大成
新宮8―3貴和
▽同決勝トーナメント1回戦
粉河14―3新宮
御坊商工15―3県和歌山商
▽同決勝
粉河12―2御坊商工
粉河高は6年連続6度目の代表

中国

▽…広島県

▼男子1回戦（2試合）
竹原安芸津22―8白木
木之江工9―0城北
▽同2回戦
山陽38―7竹原安芸津
盈進11―8三次工
呉宮原27―3三次
広15―7三原工
呉工19―9江田島
修道21―5瀬戸内
呉港8―7呉商
呉三津田23―4木之江工
▽同準々決勝
山陽20―8盈進
呉宮原12―10広
呉工11―8修道
呉三津田22―8呉港
▽同準決勝
呉宮原8―6山陽
呉三津田8―7呉工
▽同決勝
呉宮原8―7呉三津田
呉宮原高は20年ぶり3度目の出場
▽女子準々決勝（＝1回戦）
山陽女23―0賀茂
呉豊栄10―2戸手商
進徳女11―4呉商
広島一女商27―1白木
▽同準決勝
山陽女21―4呉豊栄
広島一女商10―4進徳女
▽同決勝
山陽女9―5広島一女商
山陽女高は4年連続12度目の出場

▽…鳥取県

▼男子予選リーグA組
倉吉工16―5境港工
倉吉工28―1倉吉東
境港工15―5倉吉東
▽同B組
境8―5倉吉産業
境20―2米子条
倉吉産業19―3米子東
▽同3位決定戦
境港工21―13倉吉産業
▽同決勝
倉吉工14（延）13境
倉吉工は2年連続2度目の代表
▼女子決勝リーグ
倉吉西6―3米子南商
倉吉西11―3境
倉吉産業9―6米子南商
倉吉産業8―2境
米子南商7―5境
倉吉産業6―4倉吉西
【順位】①倉吉産業②倉吉南③米子南商④境
倉吉産業は初出場。

四国

▽…高知県

▼男子1回戦
幡多農19―8追手前吾北
宿毛工15―10須崎工
中村30―6伊野商
中芸16―9須崎
▽同準々決勝
追手前13―7幡多農
宿毛工13―10高知園芸
中村15―9土佐
高知西12―8中芸
▽同準決勝
追手前23―4宿毛工
中村9―8高知西
▽同3位決定戦
高知西18―2宿毛工
▽同決勝
中村9―8追手前
中村高は初出場
▼女子準々決勝（1回戦）

城山 19－1 幡多農
中村 5－3 山田
中芸 18－7 佐川
高知西 17－1 高岡
▽同準決勝
城山 8－0 中村
高知西 9－3 中芸
▽同3位決定戦
中芸 7－5 中村
▽同決勝
高知西 4(分)4 城山
▽同再試合
高知西 3－0 城山
高知西高は3年ぶり8度目の代表

▽…香川県

▼男子1回戦
高松商 15－4 多度津工
高松南 13－7 高松
丸亀 13－8 多度津水産
尽誠学園 16－9 高松東
坂出工 12－7 高松一
▽同準々決勝
三本松 13－11 高松商
高松南 17－12 土庄
尽誠学園 16－13 丸亀
高松工芸 10－8 坂出工
▽同準決勝
三本松 17－5 高松南
高松工芸 14－7 尽誠学園
▽同決勝
三本松 10－6 高松工芸
三本松高は5年連続5度目の代表
▼女子1回戦（1試合）
高松南 12－7 観音寺商
▽同準決勝
三本松 19－2 高松南
高松一 6－4 高松女商
▽同決勝
三本松 18－3 高松一
三本松は3年連線8度目の代表

九州

▽…福岡県

▼男子1回戦
小倉西 20－8 筑紫中央
西南 10－9 明善
福岡 19(延)17 香椎
門司 15－0 西田川
久留米工 12(分)12 福岡工
若松 23－8 泰星
博多工 28－2 嘉穂農
宗像 18－11 小倉工
▽同準々決勝
小倉西 15－6 西南
福岡 9－7 門司
若松 22－10 久留米工
博多工 11－10 宗像
▽同準決勝
小倉西 16－10 福岡
若松 21－10 博多工
▽同決勝
小倉西 9－5 若松
小倉西高は3年連続4度目の代表
▼女子準々決勝（＝1回戦）
筑紫女 15－2 東海
明善 9－7 福岡女商
福岡女 16－3 嘉穂農
古賀 16－0 筑紫中央
▽同準決勝
筑紫女 12－2 明善
古賀 8－5 福岡女
▽同決勝
古賀 5－4 筑紫女
古賀高は2年ぶり2度目の代表

▽…大分県

▼男子1回戦（3試合）
電波 27－8 国東農
日田商 21－20 国東
大分東 29－10 大分商
▽同準決勝
鶴崎工 25－12 電波
大分東 33－13 日田商
▽同3位決定戦
電波 22－10 日田商
▽同決勝
大分東 20－13 鶴崎工
大分東高は2年ぶり2度目の代表
▼女子決勝リーグ
大分東 30－1 中津北
青山 21－2 玖珠農
大分東 31－1 玖珠農
玖珠農 5－1 中津北
青山 24－2 中津北
大分東 12－7 青山
【順位】 ①**大分東**②青山③玖珠農④中津北。大分東高は2年連続7度目の代表

関東（速報）

関東各県はいずれも6月なかばすぎから予選がはじまり代表が決まっている。

強者を揃えた埼玉は男子で浦和南、女子で浦和市立が決定、茨城は男子が笠間、女子が水海道二。また神奈川は決勝リーグの末、男子は慶応、女子は明倫が代表権を得ている。

このほか、群馬は男子が富岡、女子が桐生女、栃木は男子で矢板中央が宿願の初出場を決め女子は国学院栃木の3年連続出場となった。＝いずれも詳報次号。

▼**編集部から**……この特集は次号も引きつづき掲載します。未報告県は7月10日までに御寄稿（用紙自由）下さい。

全国中学生予選も始まる

東港中敗退

第2回全国中学生大会（8月16日～18日、愛知県青少年公園）をめざす各地の予選が始まり、トップを切って行われた愛知県予選（5月・名古屋）では男子・名古屋市立笹島中学、女子・東海市立上野中学が優勝、本大会への出場を決めた。この予選で前年度全国優勝の東港中学は準々決勝で三谷中学に8－10で敗れた。

このあと各ブロック予選は6月24日の四国予選から8月4日の北信越予選まで次々と開かれる。

（詳報次号）

◇続・各地学生春季リーグ戦記録

大体大　激戦勝ち抜く

関学3部へ　惜しい星逸した大経大

関　西

◇5月1日～27日◇大阪・東淀川体育館ほか◇参加1部7校、2部7校、3部7校、4部8校。

1部は予想どおり大阪体大、大阪経大、京都産大の優勝争いとなり、前半戦で手固く3勝をマークした3校は、第5日（5月19日、大府大）から星のつぶしあいとなった。

まず激突した大体大×大経大は大経大が穂積、津川、二宮らの活躍で優勢に試合を進め、後半23分10－8とした時はそのまま押し切るかにみえたが、大体大は24分中出、27分新人・野波（伏見工）で10－10と追いつき、タイムアップ寸前、中村が逆転のゴールを決めて貴重な1勝を握った。

大経大はこのあと京産大を、奥川の8点をあげる好技などで降し優勝への望みを残したのだが、大体大は京産大を後半15分から一気に押しまくり13－5で快勝、3シーズン連続3度目の優勝を全勝で飾った。

4位には五分の星を残した同志社がついた。

5位以下の3校はいずれも2勝をあげることができず、それなりの混戦だったが、結局、京大、近大の順となり、リーグ戦後の入れ替え戦で名門・関大が46年秋についで2度目の2部落ちとなり、近大も1シーズンだけで逆戻りしてしまった。

2部は大阪大が蒲池、新家谷らの健闘で42年春転落後初めての首位（2部優勝は通算5度目＝本誌調べ）となり13シーズンぶりの1部復帰を決めた。名門・関学は1勝をあげただけで最下位、入れ替え戦でも敗れ3部転落という悲嘆をかこった。3部は京都教大、4部は天理がそれぞれ初優勝した。

なお、各部の個人得点1位は1部・中村博之（大体大、堺工出、35点）、2部・和田仁(甲南、泉陽高出、34）、4部・倉木積一（天理、添上高出、70）となり、3部は谷口賢次（京教大、池田高出）と杉本明夫（大工大、寝屋川高出）の両選手が51点をあげて並んだ。

▽1部

		前半	後半		
同志社	21	11－10	10－5	15	関大
大阪経大	16	8－4	8－6	10	京大
大阪体大	22	11－5	11－3	8	近大
京都産大	27	12－8	15－4	12	関大
大阪経大	22	13－5	9－5	10	近大
大阪体大	29	15－3	14－6	9	京大
同志社	18	11－7	7－7	14	近大
京都産大	19	11－7	8－5	12	京大
大阪経大	15	13－3	2－6	9	関大
京都産大	12	8－3	4－4	7	近大
大阪体大	25	12－8	13－7	15	関大
大阪経大	12	7－4	5－7	11	同志社
大阪体大	11	6－3	5－7	10	大阪経大

得	【大体】		【大経】	得
0	宍倉	GK	福井	0
0	神谷	GK	吉川	0
2	中村	FP	奥川	1
1	中出	FP	津川	2
1	坂本	FP	穂積	4
1	福永	FP	山本	0
0	松尾	FP	橋本	1
2	山内	FP	二宮	2
0	宇尾野	FP	太田	0
0	藤田	FP	石井	0
0	根本	FP	林	0
4	野波	FP	塩川	0
11	(2)	7MT	(0)	10

（審・岡本・吉川）

		前半	後半		
京都産大	14	11－6	3－7	13	同志社
京大	16	6－6	10－5	11	関大
大阪経大	17	10－8	7－4	12	京都産大

得	【大経】		【京産】	得
0	福井	GK	日比	0
		GK	東口	0
8	奥川	FP	滝本	0
2	津川	FP	戸田	0
4	穂積	FP	大原	6
0	山本	FP	西沢	3
0	橋本	FP	天本	0
2	二宮	FP	荻野	1
1	太田	FP	岩原	0
0	石井	FP	宮田	1
0	林	FP	島	1
0	塩川	FP	西田	0
17	(4)	7MT	(0)	12

（審・樫塚・吉川）

		前半	後半		
大阪体大	18	11－6	7－4	10	同志社
大阪体大	13	8－2	5－3	5	京都産大

得	【大体】		【京産】	得
0	宍倉	GK	日比	0
0	神谷	GK	東口	0
5	中村	FP	滝本	0
2	中出	FP	西田	0
0	坂本	FP	寺岡	2
2	福永	FP	西沢	2
0	松尾	FP	中前	0
1	山田	FP	天本	1
0	宇尾野	FP	荻野	0
1	藤田	FP	岩原	0
2	根本	FP	富田	0
0	野波	FP	島	0
13	(2)	7MT	(0)	5

（審・保田・吉川）

		前半	後半		
同志社	21	9－5	12－1	6	京大

得	【同大】		【京大】	得
0	高橋	GK	太田	0
		GK	広畑	0
4	牧野	FP	藤田	0
0	横川	FP	真鍋	0
3	中村	FP	平井	0
6	入江	FP	渡辺	1
0	吉田	FP	早瀬	0
3	上田	FP	長崎	0
2	大庭	FP	福井	3
1	松井	FP	原	1
1	金田	FP	日下部	1
1	吉川	FP	藤井	0
21	(3)	7MT	(2)	6

（審・保田・吉川）

		前半	後半		
京大	11	4－7	7－4	11	近大

引き分け

関大 23（15-7, 8-8）15 近大

得	【関大】		【近大】	得
0	井上	GK	立川	0
		GK	岡本	0
13	内田	FP	坪川	3
3	鞘本	FP	管野	0
3	吉田	FP	小川	4
2	塚木	FP	石川	2
2	平元	FP	菅	3
0	栢本	FP	清水	1
0	川本	FP	政杳	0
0	止本	FP	夏原	1
0	結城	FP	西辻	1
		FP	芝田	0

（審・保田、橋谷）

23（1）7MT（0）15

大阪大、守備力目立つ

▽2部

竜谷 15（10-4, 5-8）12 甲南
阪大 23（10-4, 13-9）13 桃山学院
立命館 13（6-8, 7-2）10 関学
阪大 19（10-5, 9-6）11 竜谷

関西学生春季（1部）

	体	経	産	同	京	関	近	P	勝	分	敗
①大体大	…	○	○	○	○	○	○	12	6	0	0
②大経大	●	…	○	○	○	○	○	10	5	0	1
③京産大	●	●	…	○	○	○	○	8	4	0	2
④同志社	●	●	●	…	○	○	○	6	3	0	3
⑤京　大	●	●	●	●	…	○	△	3	1	1	4
⑥関　大	●	●	●	●	●	…	○	2	1	0	5
⑦近　大	●	●	●	●	△	●	…	1	0	1	5

【2部順位】①大阪大6戦全勝②甲南4勝2敗③竜谷3勝1分2敗④桃山学院3勝3敗⑤立命館2勝4敗⑥大阪府大1勝1分4敗⑦関学1勝5敗

甲南 17（8-4, 9-8）12 立命館
大阪府大 10（6-6, 4-2）8 関学
阪大 11（6-4, 5-0）4 立命館
甲南 19（14-6, 5-6）12 桃山学院
竜谷 14（4-6, 10-6）12 関学
甲南 25（17-8, 8-6）14 関学
阪大 10（9-6, 1-3）9 大阪府大
桃山学院 17（11-7, 6-9）16 大阪府大
竜谷 14（10-4, 4-5）9 立命館
桃山学院 13（8-4, 5-7）11 立命館
甲南 29（16-8, 13-7）15 大阪府大
大阪府大 15（9-11, 6-4）15 竜谷
引き分け
阪大 26（15-5, 11-3）8 関学
立命館 15（9-3, 6-4）7 大阪府大
桃山学院 17（10-9, 7-3）12 竜谷
阪大 20（9-10, 11-9）19 甲南
関学 21（11-5, 10-6）11 桃山学院

京都教大、初の優勝

▽3部

神戸大 23-21 大阪工大
追手門学院 21-18 和歌山大
大阪市大 24-12 大阪歯大
神戸大 15-14 大阪歯大
大阪工大 29-14 追手門学院
大阪工大 22-19 京都教大
大阪市大 15（分）19 神戸大
追手門学院 19-15 大阪歯大
京都教大 27-15 大阪歯大
大阪市大 17-11 和歌山大
大阪工大 21-15 和歌山大
大阪歯大 27-23 和歌山大
大阪市大 19-13 大阪工大
神戸大 22-15 和歌山大
京都教大 18-12 追手門学院
京都教大 19-13 神戸大
追手門学院 14-7 大阪市大
京都教大 19-14 大阪市大
大阪歯大 24（分）24 大阪工大
神戸大 25-18 追手門学院
京都教大 28-16 和歌山大

【3部】①京都教大5勝1敗②神戸大4勝1分1敗③大阪工大・大阪市大3勝1分2敗⑤追手門学院3勝3敗⑥大阪歯大1勝1分4敗⑦和歌山大6敗

天理、全勝優勝を飾る

▽4部

天理 37-12 姫路工大
大阪薬大 37-7 奈良教大
関西外語大 31-11 奈良教大
大阪教大 23-11 京都工繊大
天理 29-17 大阪外語大
大阪薬大 30-9 京都工繊大
関西外語大 31-9 姫路工大
大阪教大 38-10 奈良教大
大阪薬大 29-20 大阪外語大
関西外語大 24-8 京都工繊大
大阪教大 39-12 姫路工大
関西外語大 16-14 大阪外語大
天理 23-16 大阪薬大
天理 36-9 京都工繊大
京都工繊大 16-14 奈良教大
大阪外語大 18-13 姫路工大
大阪教大 23-15 大阪薬大
天理 25-20 関西外語大
大阪外語大 26-8 奈良教大
大阪教大 18-17 関西外語大
大阪薬大 24-17 姫路工大
姫路工大 16-12 奈良教大
大阪外語大 25-7 京都工繊大
天理 36-17 大阪教大
関西外語大 16-11 大阪薬大
大阪教大 21-6 大阪外語大
京都工繊大 18-14 姫路工大
天理 37-11 奈良教大

【順位】①天理7戦全勝②大阪教大6勝1敗③関西外語大5勝2敗④大阪薬大4勝3敗⑤大阪外語大3勝4敗⑤京都工芸繊維大2勝5敗⑦姫路工大（新加盟）1勝6敗⑧奈良教大（新加盟）7敗

阪大、甲南1部へ復活

▼各部入れ替え戦（6月2日・京都市西京極体育館）

▽3～4部

大阪歯大（3部6位）26-17 大阪教大（4部2位）
天理（4部1位）23-19 和歌山大（3部7位）

▽2～3部

大阪府大（2部6位）15（7-6, 8-5）11 神戸大（3部2位）

京都教大（3部1位）18（11－5 7－7）12 関学（2部7位）

▽1～2部

甲南（2部2位）33（17－10 16－8）18 関大（1部6位）

阪大（2部1位）18（12－8 6－5）13 近大（1部7位）

総評 今春は男子（1部）、女子ともにかなりの混戦が予想されたが、結局、選手層の厚い大体大と甲子園短大が全勝優勝した。

特筆されるのは京産大。初日の関大戦でエース福井が脱臼を負いその後の試合を欠場するというハンデをうけながらチームの総合力で3位の座を獲得した。エースにすべての負担がかかる学生スポーツにあって京産大の健闘は清々しく、学生ハンドボールのよさを再認識させたといえる。

女子（記録後掲）は、武庫川女大、大教大が新風を吹きこんだ。今後の関西学生女子の発展に寄与するだろう。

男子の2部以下では名門大阪大が2部で全勝をマークした活躍が目立ち、3部は京都教大、4部では新鋭・天理がそれぞれ首位となった。

全般的に各チームの力が接近し内容も豊かになりつつあるが、試合マナーの悪さはいささかいただけない。試合である以上「勝負」には当然執着するであろうし、母校のために全力をかけた闘志をあらわすことも当然だが、それが、〝粗暴〟にすぎてはならない。ややもすると学生スポーツの本分を忘れてしまう傾向があることは反省すべきだ。どのような場合でもフェアに徹したプレーをして欲しい。（吉川 徹・審判長・桃山学院大OB）

関西（女子）

甲子園短大3連勝

武庫川、大阪教大の活躍目立つ

◇5月3日～27日◇大阪市中央体育館ほか◇参加5校。

優勝こそ甲子園短大の3連勝7度目に落ち着いたが、内容的にはかつてない盛りあがりをみせた。

その原動力となったのは武庫川女大と大阪教大。

大阪教大は大体大戦で前半の劣勢をはねのけて引き分けへもちこみ、武庫川女大は甲子園を相手に一歩も引かぬ激戦の末惜敗、大体大戦ではみごとに勝ち星をあげた。

甲子園×大体大の争いに終始していたリーグ戦だが、強者の多数化は大いに望まれるところであり今秋以降の優勝争いに楽しみを残した。

個人得点1位は21ゴールをあげた山本恵子選手（大体大、京都女子高出）に決まった。

武庫川女大 9（5－1 4－1）2 大阪薬大

甲子園短大 12（6－2 6－0）2 大阪教大

大阪体大 6（2－1 4－5）6 大阪教大

引き分け

甲子園短大 23（10－2 13－0）2 大阪薬大

大阪体大 22（15－1 7－1）2 大阪薬大

甲子園短大 5（3－1 2－1）2 武庫川女大

【武庫】	得
GK 榎本	0
FP 橋本	0
万代	0
中川	1
倉	0
寺尾	1
辻	0
青木	0
谷本	0
井上	0
吉田	0

【甲子】	得
GK 田中	0
菊池	0
FP 平田	0
木下	0
竹内	1
太田	2
飛嶋	0
仁張	2
高木	0
森岡	0
岡本	

（審・伊谷 楮谷）

5（2）7MT（0）2

甲子園短大 7（4－3 3－3）6 大阪体大

【体大】	得
GK 堀川登	0
梅谷	0
FP 堀川景	1
山木	5
高木	0
松本	0
大谷	0
奥野	0
金森	0
高市	0
百田	0
日置	0

【甲子】	得
GK 田中	0
菊池	0
FP 平田	0
大下	2
竹内	2
太田	1
福	0
飛嶋	1
仁張	1
高木	0
森岡	0
岡本	0

（審・吉川 保田）

7（0）7MT（0）6

大阪教大 12（6－2 6－2）4 大阪薬大

武庫川女大 6（1－2 5－3）5 大阪体大

武庫川女大 8（4－2 4－0）2 大阪教大

【順位】①甲子園短大4戦全勝②武庫川女大3勝1敗③大阪体大・大阪教大1勝2敗1分⑤大阪薬大4敗

山口大女子 福岡教大破る

西部女子学生選手権

試合相手に恵れぬまま部活動をつづけていた山口大女子と福岡教大女子が6月17日山口大体育館で第1回西部女子学生選手権と銘打ち対戦、山口大が、7点をあげた田中の活躍で福岡教大の追いあげをかわし初の優勝校となった。

山口大 8（4－4 4－6）7 福岡教大

男子は九州産大が2連勝

中四国、九州学連による第23回西部日本学生選手権は6月16、17日の両日山口大体育館に13校が参加してトーナメントで行われた。決勝は九州産大（中四国）×広島修道大（中四国）の対戦から、九州産大が秀れた攻撃力で大量点をあげ28－14で快勝、2連勝をとげた。九州代表の優勝は2年連続8度目。（詳報次号）

金沢工大、北信越で5連勝
中四国は広島修道大勝つ

北信越

◇6月16、17日◇金沢美術工芸大体育館◇参加6校

参加6校を二組に分けた予選リーグのあと、各組同順位が対戦、ランクを決めた。

実力伯仲とみられた予選A組は福井大が秀れた攻撃力で勝ちあがり、同B組では予想通り金沢工大が安定した攻守を示した。

優勝をかけた金沢工大×福井大は、立ちあがりから優位に立った金沢工大が終始そのままのペースで快勝、5シーズン連続6度目の栄冠を手にした。

▽予選リーグA組
福井大 14－9 信州大
信州大 13（分）13 金沢美術工大
福井大 19－8 金沢美術工大

▽同B組
金沢工大 15－5 富山大
富山大 14－10 金沢大
金沢工大 24－9 金沢大

▽5・6位決定戦
金沢大 18（7－2、11－5）7 金沢美術工芸大

▽3・4位決定戦
富山大 12（5－4、4－5、……、1－1、2－1）11 信州大

▽優勝決定戦
金沢工大 22（11－5、11－7）12 福井大

中四国

松山商大、元気なく4位

◇5月26、27日◇山口県立体育館ほか◇参加1部5校、2部6校

1部は昨秋優勝の松山商大が元気なく第1日で2勝をあげた広島修道大（旧・広島商科大）、山口大の優勝争いとなった。

第2日、両校の対戦は広島修道大が、チャンスを確実に活かして優位に立ち4点差で降し、最終戦の松山商大にも快勝、4戦全勝となり、広島修道大としては初、広島商科大時代を通算すると15シーズンぶり9度目の優勝を決めた。

2部は3校ずつ2組の予選リーグのあと、各組1位の岡山大と広大福山が対戦、岡山大が初優勝した。

▽1部
香川大 12－11 松山商大
広島修道大 29－6 広島工大
山口大 14－5 松山商大
山口大 18－10 広島工大
広島修道大 16－12 香川大
広島修道大 15－11 山口大
広島工大 14－4 松山商大
山口大 13－12 香川大
広島修道大 25－10 松山商大
香川大 13－12 広島工大

【順位】①広島修道大4戦全勝②山口大3勝1敗③香川大2勝2敗④広島工大1勝3敗⑤松山商大4敗

▽2部予選リーグA組
近大呉工学部 21－12 山口大工学部
広島大福山 12－6 近大呉工学部
広島大福山 25－10 山口大工学部

▽同B組
愛媛大 24－7 広島大
岡山大 26－5 広島大
岡山大 12－6 愛媛大

▽同5・6位決定戦
広島大 15－13 山口大工学部

▽同3・4位決定戦
愛媛大 12－8 近大呉工学部

▽同1・2位決定戦
岡山大 20－18 広大福山

（本項の試合記録は読者・大山勝氏提供の中国新聞より転載）

芝浦2部、立教3部へ落ちる

▼関東学生春季各部入れ替え戦（5月29日・駒沢屋内球技場）

▽4〜5部
独協（4部8位）21－19 東京経大（5部1位）
明治学院（5部2位）19（延）18 千葉大（4部7位）

▽3〜4部
駒沢（4部1位）21－9 武蔵工大（3部8位）
青山学院（4部2位）21－12 順天堂（3部7位）

▽2〜3部
東海（3部1位）23（10－4、13－4）8 一橋（2部8位）
千葉工大（3部2位）14（7－5、7－8）13 立教（2部7位）

▽1〜2部
日大（2部1位）17（7－2、10－9）11 東京教大（1部8位）
慶応（2部2位）13（7－3、6－4）7 芝浦工大（1部7位）

日大は4シーズンぶり、慶応は13シーズンぶりの1部復帰。教大の2部は38年春以来、芝浦工大の2部は加盟当時（昭26〜28）にさかのぼる。立教の3部は史上初。

女子で岐阜大が初

東海（新人戦）

（5月26、27日南山大ほか）

▽男子1回戦
名大 13－7 愛知教大
中京B 17－7 中部工大
岐阜大 9－8 愛大名古屋
三重大 18－2 名工大

▽同準々決勝
名城 13－5 名大
中京B 17－9 愛大豊橋
岐阜大 23－5 名古屋学院
中京 16－2 三重大

▽同準決勝
名城 16－11 中京B
中京 20－7 岐阜大

▽同3位決定戦
岐阜大 14－8 中京B

▽同決勝
中京 16（9－5、7－8）13 名城

中京大は3度目の優勝。

▽女子準決勝（＝1回戦）
岐阜大 20－7 中京
愛知教大 7－5 中京女

▽同決勝
岐阜大 9（5－1、4－5）6 愛知教大

岐阜大は初優勝

早稲田が11度目の優勝

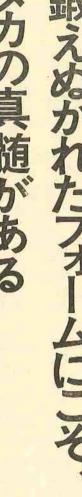
第13回早慶明3大学対抗定期戦は6月19日東京・早大記念会堂で行われ、リーグ3位の早稲田が貫録を示して2勝、4年連続11度目の優勝を飾った。慶応の復帰で3校がすべて1部校として顔を揃えたがこれは10年ぶりのこと。

明治 20（12－9、8－7）16 慶応
早稲田 21（10－8、11－9）17 明治
早稲田 17（8－7、9－4）11 慶応

九州学連選抜が3連勝

第6回九州学連選抜－中四国学連選抜（男子）の対抗戦は6月15日山口県立体育館で行われ、一進一退の好ゲームを展開した結果、九州学連選抜が19－18で逃げ切った。

【訂正】本誌109号17頁・関東学生勝敗表のうち法政のポイント（P）と中央のポイントはいれ違いでした

鍛えぬかれたフォームにこそ、
メカの真髄がある
■ジューキミシンは精密工学の結晶とうたわれる高級品。シャープなスタイリングで、その名を高めています。

ジューキ
東京重機工業株式会社

男子は慶応、女子水海道二勝つ

第19回 関東高校ブロック高校選手権

◇6月9～11日◇栃木市国学院栃木高球技場◇参加＝男24、女24。

男子では中大附属（東京）が準決勝、女子では深谷女（埼玉）が2回戦と去年の全日本チャンピオンが相次いで敗退する波乱があった。

男子はベスト8の実力がまったく伯仲、準々決勝以降は見応えのある好試合の連続となったが、このところめきめき力をあげている慶応（神奈川）が巧みな試合運びで激戦を勝ち抜き初優勝、第5回（昭34）の鎌倉学園以来14年ぶりに神奈川へ栄冠をもたらした。東京代表の11連勝と中大附の4連勝は成らなかった。

女子も激戦となり古豪に新鋭がからむ展開をみせた。

3連勝を目指すホームコートの国学院栃木が深谷女を延長の末降した余勢をかるかにみえたが、準々決勝で佐原女（千葉）に不覚をとり、いっそう混戦となった。

結局、決勝は水海道二（茨城）×栃木女の名門同士の顔合せから水海道二が先制攻撃を成功させて快勝、3年ぶり5度目の優勝を飾った。茨城代表の優勝も3年ぶり5度目。

▼男子1回戦

佐　原（千）14—7 吉　田（山）
中大附（東）15—7 湘南通信（神）
足利工（栃）12—9 春日部（埼）
前橋商（群）9—7 烏　山（栃）
明　星（東）17—10 土浦三（茨）
麻　生（茨）14—7 日　川（山）
前橋工（群）20—12 横浜商工（神）
市川学園（千）9—6 浦和市立（埼）

▽同2回戦

国　立（東）13—7 佐　原
塩山商（山）13—5 足利工
笠　間（茨）17—12 明　星
前橋工 9—8 川口工（埼）
中大附 15—11 清　水（千）
富　岡（群）14—4 前橋商
国学院栃木 9—7 麻　生
慶　応（神）21—11 市川学園

▽同準々決勝

塩山商 10（2—5、8—3）8 国　立
前橋工 17（5—4、7—8、……、0—1、5—0）13 笠　間
中大附 9（8—7、1—1）8 富　岡
慶　応 7（4—3、3—3）6 国学院栃木

▽同準決勝

前橋工 21（9—6、12—6）12 塩山商
慶　応 12（5—1、7—2）3 中大附

▽同決勝

慶　応 17（8—8、9—4）12 前橋工

▽女子1回戦

笠　間（茨）14—1 市川崎（神）
日　川（山）7—6 井　草（東）
国学院栃木 15—2 浦和西（埼）
明　徳（千）8—5 塩山商（山）
鉾田二（茨）11—1 下仁田（群）
小山城南（栃）11—3 小　平（東）
浦和市立（埼）7—5 桐生女（群）
昭和学院（千）16—3 上　溝（神）

▽同2回戦

佐原女（千）8—3 笠　間（茨）
国学院栃木 8—7 深谷女（埼）
明　倫（神）8—7 鉾田二
栃木女（栃）15—5 浦和市立
水海道二（茨）12—5 日　川
明　徳 6—5 前橋市女（群）
小山城南 13—10 江東商（東）
昭和学院 4—3 山　梨（山）

▽同準々決勝

栃木女 11（5—1、6—1）2 明　倫
水海道二 9（7—3、2—0）3 明　徳
昭和学院 7（4—3、3—1）4 小山城南
佐原女 10（4—4、4—4、……、0—1、1—0、……、0—0、1—0）9 国学院栃木

▽同準決勝

栃木女 6（5—0、1—1）1 佐原女
水海道二 5（5—0、0—2）2 昭和学院

▽同決勝

水海道二 4（3—0、1—2）2 栃木女

北海道は室蘭勢　第24回北海道高校選手権は6月24、25日札幌で行われ、男子は室蘭東が新進・札幌南を19—18で破り、女子は室蘭商が逆転で快勝した。

聖光学院工が初　第26回東北高校選手権は6月23、24日盛岡で行われ、男子は聖光学院工が初めて福島に優勝をもち帰り、女子は秋田和洋が勝ち4連勝。

小松市女は3連勝　第9回北信越高校選手権は6月23、24日金沢で行われ、男子は上田（長野）が柏崎工（新潟）を大逆転、6年ぶり3度目の優勝をとげ、女子は小松市女（石川）が3連勝4度目。

東海は男女とも初　第20回東海高校選手権は6月23、24日岐阜で行われ、男子は名城大附が抜群、女子は西尾が各県のインターハイ代表を連破して初優勝。

（各地とも詳報次号）

—大同，本田技研と乱戦—

各地の記録・東海実業団

女子は田村紡が8度目

第9回東海実業団選手権は5月13、27日の2日間名古屋市体育館に男子12チーム、女子3チームが参加して開かれた。

男子予選リーグでは、二和家具（岐阜）が新日鉄名古屋（愛知）に敗れる小波乱があったほかは、大同製鋼、トヨタ車体の愛知勢と本田技研鈴鹿（三重）が順当に2勝をマーク、決勝トーナメントへ進んだ。

準決勝は予想どおり大同と本田が圧倒的な力を見せて快勝、優勝は3年つづけて大同×本田の争いになった。

本田の出足はよく、15分5—0、24分8—2とリードを奪い大同は苦境に立った。しかし本田の攻撃がわずかに鈍ったスキを大同は鋭くついて前半25分から後半12分までの17分間に実に9点連取というはなれ技を演じ逆転した。本田もこのあとよく粘り13—13で延長へもつれこむ熱戦となった。

延長後は本田が再び優位に立ち押し切るかにみられたが、大同は盛りかえし15—15のあとタイムアップ寸前の7MTを花輪が決めて乱戦にケリをつけた。大同製鋼は4連勝、本田技研は第6回（昭45）に4位となった以外、準優勝は8度目である。

女子は田村紡（三重）とブラザー工業（愛知）が新登場の伏原紡（愛知）を寄せつけず、4年つづけて田村×ブラザーが優勝をかけて対戦、二転三転の好ゲームを演じた末、田村紡は後半23分辻が貴重な決勝点をあげ辛勝、2年連続8度目の優勝を飾った。

▽男子予選リーグA組

トヨタカローラ愛知 21（13—4，8—7）11 日本合成ゴム（三重）

大同製鋼（愛知）27（12—3，15—3）6 トヨタカローラ愛知

大同製鋼 44（21—1，23—4）5 日本合成ゴム

▽同B組

新日鉄名古屋（愛知）19（10—7，9—10）17 二和家具（岐阜）

北陸電力（福井）18（8—9，10—7）16 二和家具

新日鉄名古屋 20（10—5，10—4）9 北陸電力福井

▽同C組

三菱油化（三重）18（7—6，11—7）13 日本碍子（愛知）

トヨタ車体（愛知）30（12—7，18—8）15 三菱油化

トヨタ車体 29（15—8，14—11）19 日本碍子

▽同D組

三友工業（愛知）19（8—5，11—7）12 日本耐酸壜（岐阜）

本田技研鈴鹿（三重）27（10—4，17—4）8 三友工業

本田技研鈴鹿 47（23—2，24—2）4 日本耐酸壜

▽同決勝トーナメント1回戦（＝準決勝）

大同製鋼 34（16—6，18—8）14 新日鉄名古屋

本田技研鈴鹿 35（20—7，15—12）19 トヨタ車体

▽同3位決定戦

トヨタ車体 27（16—7，11—13）20 新日鉄名古屋

▽同決勝

大同製鋼 16（6—8，7—5……1—2，2—0）15 本田技研鈴鹿

得	【大同】			【本田】	得
0	柳川兄	GK	GK	戸田	0
0	倉谷	GK	GK	市川	0
2	野田	FP	FP	勝田	2
4	藤中	FP	FP	佐藤	4
2	加藤	FP	FP	田上	2
2	中井	FP	FP	新実	2
5	松原	FP	FP	末岡	1
0	石川	FP	FP	林	0
1	花輪	FP	FP	長谷川	4
0	北村	FP	FP	三浦	0
0	守田	FP	FP	岩木	0
0	柳川弟	FP	FP	宮川	0
16	(1)	7MT		(2)	15

（審・坊野、鈴木）

▽女子決勝リーグ

ブラザー工業（愛知）27（13—1，14—1）2 伏原紡（愛知）

田村紡（三重）29（17—0，12—1）1 伏原紡

田村紡 10（5—5，5—4）9 ブラザー工業

得	【田村】			【ブ工】	得
0	久保	GK	GK	井戸田	0
0	岡	GK	GK	山本	0
0	沖	FP	FP	藤浪	2
1	辻	FP	FP	鳥居	2
3	三毛	FP	FP	原川	1
2	金田伴	FP	FP	平	0
0	金田孝	FP	FP	宮崎	2
0	横山	FP	FP	小森	0
0	和久井	FP	FP	藤井	1
2	松下	FP	FP	鍋島	1
2	鈴木	FP	FP	杉本	0
0	落合	FP	FP	国府田	0
10	(3)	7MT		(1)	9

（審・坊野、田中）

東海実業団決勝を見て（投稿）

本田技研絶対優勢から大同が追いあげ、延長の末最後は逆転という近来マレな激戦を見て興奮した。

大同の補強ぶりからみて本年は全タイトルを独占するだろうとの予想に本田技研がここまで食い下がるとは誰もが思ってもみなかったに違いない。

しかし、残念ながら試合開始直後、中井（大同）の反則退場があってから、あらゆるレフェリーの判定に文句をつけていたのはいただけない。これが結局、出足をとめる結果ともなり、前半大差をつけられる原因ともなったのだが、観衆も同よう不愉快になり、名古屋で開催しているにも抱らず本田技研に対する応援の方が多かった。

こんな状態のまま大同がもし全日本のナンバー・ワンチームとなった時、ハンドボールはほろびるのではないかという危惧すら感じる。

全日本覇者となればなるほど謙きょに判定に従うべきだし、一つや二つのミスジャッジでチームの状態が混乱するようでは本当に強いチームとはいえない。

大同チームには今後全日本を代表するチームとなるべく風格を身につけてもらいたい。ファンもそれを待っているし、それがより早く覇者となるべき道だと思うからである。

【三重・S】

★……「各地の記録」欄への寄稿をお願いします。市町村大会以上の公式戦を大会終了後なるべく早くお送り下さい。用紙自由。原文を短かくする場合があります。

茨城、3部門で首位

▼第7回茨城・埼玉・群馬3県対抗（5月・麻生町）

▽一般男子

大崎電気（埼玉） 22（9－8、13－5）13 光電工業（群馬）

自衛隊勝田（茨城） 30（13－5、17－10）15 光電工業

大崎電気 24（15－7、9－8）15 自衛隊勝田

▽同女子

大崎電気（埼玉） 15（8－2、7－0）2 桜芳ク（茨城）

群馬代表は欠場。

▽高校男子

麻生（茨城） 17（12－1、5－5）6 全埼玉

富岡（群馬） 12（6－7、6－4）11 全埼玉

麻生 8（4－5、4－3）8 富岡 引き分け

▽同女子

水海道二（茨城） 7（5－2、2－2）4 深谷女（埼玉）

深谷女 13（5－2、8－1）3 前橋市女（群馬）

水海道二 11（6－2、5－0）2 前橋市女

▽教員

茨城 19（10－5、9－10）15 群馬

埼玉 19（8－5、11－6）11 群馬

茨城 18（9－3、9－5）8 埼玉

全那覇、小禄OBを破る

▼第6回沖縄一般・教員大会（5月・南部商高ほか）

▽一般男子準々決勝

小禄OB 27－11 浦添市役所

豊見城OB 22－12 宮古OB

全那覇 14－11 琉球大

沖国大 14－10 沖高OB

▽同準決勝

全那覇 21－12 沖国大

小禄OB 21（延）20 豊見城OB

▽同決勝

全那覇 18（11－4、7－6）10 小禄OB

▽同女子1回戦（1試合）

中頭 13－11 小禄・知念高愛好会

▽同決勝

中頭 8（4－5、4－2）7 沖国大

▽教員（男子）準々決勝

上ノ山中教 14－13 沖縄高教

沖縄工教 29－14 南部商教

首里高教 13－9 安岡中教

南部農林教 16－9 仲西中教

▽同準決勝

沖縄工教 22（延）20 上ノ山中教

南部農林教 19－16 首里

▽同決勝

南部農林高教員 20（10－9、10－9）18 沖縄工高教員

塩山商、日川に辛勝

▼山梨県高校総合体育大会ハンドボール競技（5月・甲府）

▽男子準々決勝

日川 19－6 明誠

塩山 20－3 谷村

吉田 14－7 韮崎

甲府一 16－10 長坂

▽同準決勝

日川 16－8 吉田

塩山商 18－7 甲府一

▽同3位決定戦

吉田 20－10 甲府一

▽同決勝

塩山商 16（7－7、6－6……2－2、1－0）15 日川

▽女子準々決勝

吉田商 13－2 一商

塩山商 14－4 長坂

日川 15－3 甲府二

山梨 7－4 甲府商

▽同準決勝

塩山商 8－7 吉田商

山梨 3－1 日川

▽同3位決定戦

日川 7－5 吉田商

▽同決勝

山梨 6（1－1、5－1）2 塩山商

金沢市役所が順当勝ち

▼石川県一般春季選手権（5月・金沢美大体育館）＝男子のみ

▽準々決勝

津幡ク 17－13 金沢美大

金沢市役所 28－11 県工ク

あすなろ・ク 25－14 二交ク

金沢大 16－14 小松製作所

▽準決勝

金沢市役所 33－16 津幡ク

あすなろ・ク 22－10 金沢大

▽決勝

金沢市役所 28（14－7、14－10）17 あすなろク

麻生高OG、前半に大差

▼第3回茨城県クラブトーナメント（6月・鉾田二高）

▽男子1回戦（2試合）

竜ヶ崎ク 31－11 麻生プリンス

麻生ク 30－12 千代田ク

▽同準決勝

新治ク 20－9 竜ヶ崎ク

土浦桜水ク 16（延）15 麻生ク

▽同決勝

新治ク 18（10－4、8－12）16 土浦桜水ク

▽女子決勝

麻生高OG 12（9－1、3－6）7 桜芳ク

イーグルス、湧永降す

▼第27回大阪府民体育祭ハンドボール競技（5月、三国ケ丘高ほか）

▽一般男子準々決勝

大阪イーグルス 26－13 大阪ガス

湧永薬品 26－13 城東ク

オールドイーグルス 20－13 府立工専

待兼ク 16－10 雪陵ク

▽同準決勝

大阪イーグルス 11－9 湧永薬品

オールドイーグルス 27－7 待兼ク

▽同決勝

大阪イーグルス 27（12－2、15－5）7 オールドイーグルス

大阪イーグルスは3連勝

▽同準々決勝

大谷ク 8－2 大阪教大

大阪スターズ 11－2 大阪薬大

大体大ク 14－2 大和銀行

寝屋川ク 15－9 住吉学園ク

▽同準決勝

大谷ク 8－7 大阪スターズ

大体大ク 6－5 寝屋川ク

▽同決勝

大谷ク 6（5－1、1－2）3 大体大ク

大谷クは2連勝

▽高校男子準々決勝

枚方 15－3 北淀

初芝 16－11 春日丘

泉北 16－7 北陽

鳳 17－12 桃山

▽同準決勝

鳳 13（延）11 泉北

初芝 9（延）8 枚方

▽同決勝

初芝 16（7－4、9－6）10 鳳

▽同女子準々決勝

春日丘 6－3 門真

枚方 6－3 初芝

大谷 13－2 岸和田

愛泉 5－3 箕面

▽同準決勝

春日丘 7（延）4 枚方

大谷 6－1 愛泉

▽同決勝

春日丘 6（4－2、2－0）2 大谷

男子は青森が快勝

▼第23回青森県高校春季選手権（5月・十和田市）

▽男子決勝トーナメント1回戦

鰺ヶ沢 12—6 青森東

青森 20—13 七戸

▽同決勝

青森 10（7—1 3—2）2 鰺ヶ沢

▽女子決勝

青森西 5（1—1 4—1）2 三本木

大同製鋼の好調つづく

▼名古屋市春季一般選手権（5月プラザー工業）

▽男子準決勝

大同製鋼 38—11 港ク

愛知教員 17—9 大同黒崎

▽同決勝

大同製鋼 23—10 愛知教員

三菱レ大竹、安定の試合

▼広島県一般春季選手権（5月・呉商高）＝男子のみ

▽準々決勝

三菱レ大竹 20—9 県教職員ク

日本鋼管福山 18—14 全広商大

修道ク 14—12 呉工専

日新製鋼呉 23—7 石播呉造船

▽準決勝

三菱レ大竹 18—9 日本鋼管福山

日新製鋼呉 22—10 修道ク

▽決勝

三菱レ大竹 20（11—5 9—4）9 日新製鋼呉

▽敗者トーナメント決勝

県教職員ク 18—15 呉工専

中学大会記録

◇大阪・府民体育祭中央大会（5月・大淀中）参加＝男16、女8

▽男子準々決勝

住吉 17—7 泉南

豊九 12—11 豊二

浜寺 10—9 東陽

箕二 10—9 福泉南

▽同準決務

住吉 15—11 豊九

浜寺 10—5 箕二

▽同決勝

浜寺 10—7 住吉

▽女子準々決勝

豊二 6—4 住吉

浜寺 8—3 大谷

勝山 16—2 高槻十

福泉南 9—4 大淀

▽同準決勝

浜寺 7—6 豊二

福泉南 15—0 勝山

▽同決勝

福泉南 10—1 浜寺

◇愛知・第2回県中学大会（5月）参加＝男16、女16

▽男子準々決勝

桜田 16—10 蒲郡

三谷 10—8 東港

笹島 18—10 豊橋南部

羽田 15（延）13 名南

▽同準決勝

三谷 12—11 桜田

笹島 9—8 羽田

▽同決勝

笹島 16—9 三谷

▽女子準々決勝

三谷 13—5 桜田

上野 9—2 形原

牟呂 14—4 猪高

豊橋南部 4—2 明豊

▽同準決勝

上野 15—4 三谷

豊橋南部 8—6 牟呂

▽同決勝

上野 17—6 豊橋南部

アシスト記録の制定を

ハンドボールの個人記録というと、得点数だけに重きがおかれすぎ、いわゆるパイ・プレイヤーに光りがあてられていない感じだ。

サッカーやアイスホッケーが採用している「アシスト点」をハンドボールでも考案すれば、チャンスメーカーやリード・オフ・マンといった人たちにも励みになるのではないか。

これには、公式記録の再検討からはじめなければならず、アシスト（得点補助者）の認定も統一した見解を明きらかにしなければならないだろうが、これまで放置されていたのがおかしいくらいで、是非、早急にこの研究をまとめ発表して欲しい。

このようなデーターがつみ重なれば各種選抜軍や全日本の編成の時にも、納得のいった数字をともなう人選ができるだろう。

チームスポーツであるハンドボールにとって邪道かもしれぬが、得点王やアシスト王といった個人記録によるスタープレイヤーが生まれることは、一般へのPRにもなる。

大きな発展のためには古いカラをつき破る〝勇気〟が必要だしその一つとして個人の力倆評価にスポットライトをあててもらいたいもので、特に「アシスト」は競技的にも充分活用されてしかるべきことであろう。

【東京・下田正人】

投書欄　明日への提言

熊本協会の新役員　熊本協会は新役員を次のとおり決めた。

▽会長　佐々木克己▽理事長　藤田八郎▽副理事長　島田秀四▽常任理事　横山勝典、井蕪、仁尾元希、三穂野澄夫、竹原康幸、大宮泉、井手和洋、森豊夫、中津海真一、平井徳一

大分協会新事務局　大分協会の事務局は左のとおり変った。

大分市大字玉沢字丸山一〇六九雄城台高校・福田稔氏気付（電〇九七五—41—〇一二三）

編集後記

□…今月号は大会記録オンパレードのようになってしまいました。

そのなかで芝浦工大、東教大、関大の2部転落、立教、関学の3部転落というニュースほど容しゃない時の流れを感じたものはありません。各校の最上位復活を信じて待ちたいものです。

□…インターハイ、インターミドルの各地予選も火ぶたを切りました。本誌の悲願?は、予選記録の完全収録です。このことに限らず記者をもたない編集部としては皆様からの積極的な寄稿を待望しています。

月刊制施行以来いちども欠刊がなく、つねに活きたニュースを提供できたのは読者の支援があったからといえましょう。

□…ユーゴの来日が決まりました。オリンピック金メダルチームの来日は今後望めるかどうか判りません。多くのかたが会場へ足を運ばれ、現代ハンドボールの粋を集めたといわれるユーゴの雄姿にふれて下さい。

□…世界選手権への具体策も公けにされ、日本協会の頂点強化路線も新しいスタートを切りました。

一方で、各地にみられる最近の底辺活動には目を見はらされるものがあります。斯界の歩みは着実に印されているとお思いになりませんか——。

（S）

日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第一一〇号
昭和四十年六月七日第三種郵便物認可　昭和四十八年六月二十五日印刷　昭和四十八年七月一日発行
発行所　日本ハンドボール協会　東京都渋谷区神南一ー一ー一　電話大代表(467)三一一一　振替東京五八三四八番
編集兼発行人　保坂周助
定価二百円（年間購読料千八百円）